平成２６年度

教養教育履修案内

横浜国立大学

入学年度による本冊子の見方

p.5～p.24　教養教育履修案内【平成 26 年度入学者適用】

平成 26(2014)年度入学者のみを対象としています。平成 25 年度以前の入学者は，各入学年度時に配布された「教養教育履修案内」を参照してください。

p.25～p.72　教養教育履修案内【全学生適用】

入学時に適用された履修基準は卒業まで適用されることから，入学年度によって適用される履修基準は異なります。平成１８年度に大幅なカリキュラム改定を行っていますので，入学年度によって次のように授業科目区分等の読み替え等を行い，本冊子を利用してください。

１　平成１８（２００６）年度以降の入学生

本冊子の授業科目区分等は平成１８年度からの新カリキュラムに基づき記載しているので，特に読み替え等の必要はありません。

２　平成１７（２００５）年度以前の入学生

平成１７年度以前の入学生のカリキュラムは平成１８年度からの新カリキュラムと異なっていますので，次のとおり読み替えて本冊子を利用してください。

平成１８年度以降の授業科目区分		読み替える授業科目区分
教養コア科目		主題別教養科目
基礎科目	人文社会系	主題：文化と人間社会
	自然科学系	主題：自然と科学技術
現代科目		※主題：自然と科学技術
		※主題：文化と人間社会
総合科目		主題：総合領域
情報リテラシー科目		コンピューティング

※現代科目の読み替える授業科目区分については，p.29 の現代科目「旧カリ生の読み替え区分」欄により区分されます。

目　　次

入学年度による本冊子の見方 1
平成２６年度学年暦 3
教養教育の目的 4

教養教育履修案内【平成２６年度入学者適用】 5
Ⅰ．授業科目 6
Ａ．学期 8
Ｂ．授業及び単位の基準等 8
Ⅱ．教養教育科目の授業科目及び履修方法 9
Ａ．教養教育科目とは 9
Ｂ．教養教育科目の履修基準等 10
Ｃ．教養コア科目・情報リテラシー科目・基礎演習科目 14
Ｄ．外国語科目 16
Ｅ．健康スポーツ科目 20
Ｆ．外国人留学生のための授業科目 21
Ⅲ．受講手続き等について 23
Ａ．受講手続き 23
Ｂ．試験 23
Ｃ．受験上の注意事項 24
Ｄ．学業成績 24
Ｅ．ＧＰＡ制度導入による再履修のための科目について 24
教養教育履修案内【全学生適用】 25
Ａ．教養コア科目，情報リテラシー科目及び基礎演習科目 26
Ｂ．外国語科目〔**平成１８年度以降入学者適用**〕 37
Ｃ．外国語科目〔**平成１７年度以前入学者適用**〕 51
Ｄ．健康スポーツ科目 61
Ｅ．外国人留学生のための授業科目〔**平成１８年度以降入学者適用**〕 63
Ｆ．外国人留学生のための授業科目〔**平成１７年度以前の入学者適用**〕 65
Ｇ．グローバルＰＬＵＳ　ＯＮＥについて 66
Ｈ．地域交流人材育成プログラムについて 67
Ｉ．再履修について 67
Ｊ．追試験について 68
Ｋ．シラバスについて 68
Ｌ．講義棟案内図・キャンパスマップ 69

平成２６年度学年暦

事　項	期日又は期間	備　考
春季休業期間	４月　１日（火）～　４月　３日（木）	
入学式	４月　３日（木）	
春学期開講	４月　４日（金）	※１
授業振替日	５月　２日（金）は火曜日の授業を行う	
補講週間	５月１２日（月）～　５月１６日（金）	※２
清陵祭	５月２４日（土）～　５月２５日（日）	
	（５月２４日（土）は準備含む）	
開学記念日	６月　１日（日）	
補講週間	６月１６日（月）～　６月２０日（金）	※２
補講週間	７月　７日（月）～　７月１１日（金）	※２
授業振替日	７月２３日（水）は月曜日の授業を行う	
春学期末試験期間	７月２４日（木）～　７月３１日（木）	
	（７月３１日（木）は試験の予備日）	
夏季休業期間	８月　１日（金）～　９月３０日（火）	
秋季卒業式・修了式	９月２５日（木）	（予定）
春学期終講	９月３０日（火）	
秋学期開講	１０月　１日（水）	
秋季入学式	１０月　２日（木）昼休み	（予定）
授業振替日	１０月１５日（水）は月曜日の授業を行う	
授業振替日	１０月３０日（木）は金曜日の授業を行う	
常盤祭	１０月３１日（金）～１１月　３日（月）	
	（１０月３１日（金）は準備日）	
補講週間	１１月１０日（月）～１１月１４日（金）	※２
授業振替日	１１月２６日（水）は月曜日の授業を行う	
補講週間	１２月　８日（月）～１２月１２日（金）	※２
冬季休業期間	１２月２５日（木）～　１月　４日（日）	
大学入試センター試験休業日	１月１６日（金）～　１月１８日（日）	
補講週間	１月２６日（月）～　１月３０日（金）	※２
英語統一テスト試験日	２月　３日（火）	
秋学期末試験期間	２月　４日（水）～　２月１２日（木）	
	（２月１２日（木）は試験の予備日）	
春季休業期間	２月１３日（金）～　３月３１日（火）	
個別学力検査等試験日(前期日程)	２月２５日（水）～　２月２６日（木）	（予定）
個別学力検査等試験日(後期日程)	３月１２日（木）～　３月１３日（金）	（予定）
卒業式・修了式	３月２５日（水）	（予定）
秋学期終講	３月３１日（火）	

※１　４月２日（水）までにオリエンテーション等を行い，４月４日（金）を春学期開講日とする。

※２　補講週間であっても通常授業は行う。補講は各日の第６限に実施するが，事情によりこの時間帯に実施し難い場合には，各部局の判断により別途日時を設定して補講を行うものとする。

教養教育の目的

本学における教養教育の主たる目的は次の４つです。

第１は，さまざまな学問を主体的に学び，幅広く深い教養を培い，豊かな人間性を身につけることです。

第２は，現代社会の提起する諸問題を多角的・総合的に解決する能力を培うことです。

第３は，自らの専門分野に対する関心を深め，専門科目に必要な基礎学力を修得することです。

第４は，国際感覚を養い，異文化への理解を深め，十分なコミュニケーション能力を培うことです。

本学ではこれらの目的を実現するために教養教育科目の構成において，そしてそれぞれの授業において，様々な方法を採り入れています。

ここでは上記の目的を実現するための施策に関する重要な「柱」について説明します。

１．幅広い教養の養成

多様な科目の設置：教養教育の核となる教養コア科目を３つの科目群に分類するとともに履修の自由度を高め，学生が主体的に深く学習できるよう豊富な授業科目を設置しています。

２．問題解決のための多角的・総合的な視野の養成

相互関連性：複数の授業科目を有機的に関連づけて，広い知識と多様な視点を与えることを重視しています。

総合科目の設置：複数の学問領域にわたる授業科目（総合科目）を設置することによって，総合的な思考法を身につける機会を与えています。

３．専門科目との連携

くさび形教育の実施：教養教育科目の受講を低学年に限定せず，専門科目の履修に合わせた教育を行います。

基礎演習科目の設置：基礎・基本を重視しながらも，専門教育との有機的連携を図るため，低学年次向けの双方向・対話型の少人数教育の機会も提供する基礎演習科目を開講しています。

４．外国語教育の充実

少人数クラス制の推進：効果的な外国語学習を行うため，少人数クラス編成を推進しています。

習熟度別クラス編成：外国語能力を高めるために客観的な成績評価に基づいて習熟度別クラス編成を行い，個々の学生の習熟度に応じた外国語教育を行うことによって語学能力の効率的な向上を目指しています。

国際理解力：国際感覚を養い，異文化理解を深め，国際的・学術的コミュニケーション能力の向上を目指しています。

このような教養教育の目的の実現に加えて，教養教育科目の授業における重要な，そして基本的な目標があります。それは授業において学生が受身の姿勢でなく，主体的に，かつ積極的に授業に参加するような授業にすることです。また，本学では Faculty Development（授業改善，FD と略す）を推進しています。FD の一環として本学では教養教育科目においても，学生による授業評価等を行っています。学生による授業評価等を有効に活用し，教養教育の改善に役立てています。

教養教育履修案内【平成２６年度入学者適用】

※平成 25 年度以前の入学者は，入学年度時に配布された教養教育履修案内を参照してください。

は　し　が　き

この冊子は，皆さんが横浜国立大学の学生として教養教育科目の授業を履修するにあたり，必要な事項をまとめたものです。皆さんが在学中はこの中の規定（p.5～p.24）が適用されます。授業開始時までに熟読して，４年間十分に活用されることを希望します。しかし疑問な点や不明なことがありましたら独断的に解釈しないで，所属学部の学務担当係等に遠慮なく相談してください。

教育人間科学部の学生　：　教育人間科学部　学務第一係
経 済 学 部 の 学 生　：　社会科学系事務部　経済学務係　（経済学部担当）
経 営 学 部 の 学 生　：　社会科学系事務部　経営学務係　（経営学部担当）
理 工 学 部 の 学 生　：　理工学系大学院等事務部　教務係（理工学部担当）

なお，この冊子の内容に変更が生じた場合には各学部の掲示板に掲示によって連絡しますので，掲示にはいつも注意していてください。

本学在学中に必要な学則及び学部規程などについては本学ＨＰに掲載している「学生便覧」・所属する学部の「履修案内」等に掲載してあります。

平成２６年４月

大学教育総合センター
全学教育部会

Ⅰ．授業科目

１．本学で開講されている授業科目は教養教育科目，専門教育科目及び国際交流科目に区分されています。

２．教養教育科目は教養コア科目，情報リテラシー科目，基礎演習科目，外国語科目及び健康スポーツ科目で構成され，専門教育科目は専門基礎科目及び専門科目で構成されています。

３．教養教育科目の履修基準は学部ごとに定められているので，その基準に従って履修しなければなりません。（ 次ページの《 教養教育科目履修基準表 》を参照。）

４．成績評価にはＧＰＡ制度が適用されています。詳しくは p.24 及び所属する学部の「履修案内」等を参照してください。

・この冊子は教養教育科目の履修方法について記述しています。

・履修登録を行うにあたっては，別冊子「教養教育時間割表」，次ページの「教養教育科目履修基準表」及び所属する学部の「履修案内」等（※）を参照のうえ各自の時間割を作成し，指示された登録手続きを踏んで，受講することが肝要です。

※各学部が発行する「履修案内」等の冊子名称	
教育人間科学部	履修手引
経済学部	専門教育履修案内
経営学部	履修案内
理工学部	理工学部履修案内

《平成 26 年度入学者適用：教養教育科目履修基準表》（数字は単位数「0以上」は0も可を意味する）

<table>
<tr><th colspan="3">学部学科等</th><th>教養コア科目</th><th>情報ﾘﾃﾗｼｰ科目</th><th>基礎演習科目</th><th>外国語科目</th><th>健康スポーツ科目</th><th>教養教育科目合計</th></tr>
<tr><td rowspan="2">教育人間科学部</td><td>学校教育課程</td><td></td><td rowspan="2">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td rowspan="2">2</td><td>4</td><td rowspan="2">1 外国語以上 8 以上</td><td>2 以上</td><td rowspan="2">36 以上</td></tr>
<tr><td>人間文化課程</td><td></td><td>2</td><td>選択
(0 以上)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">経済学部</td><td colspan="2">経済システム学科
国際経済学科</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>選択
(0 以上)</td><td>選択
(0 以上)</td><td>2 外国語 16
ただし 1 外国語では 12 以下</td><td>選択
(0 以上
2 以下)</td><td>42</td></tr>
<tr><td colspan="6">教養コア科目，情報リテラシー科目，基礎演習科目，健康スポーツ科目の合計 26</td></tr>
<tr><td rowspan="2">経営学部</td><td colspan="2">経営学科
会計・情報学科
経営ｼｽﾃﾑ科学科
国際経営学科</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td></td><td>選択
(0 以上)</td><td>英語 8（実習 6＋演習 2）
英語以外 1 または 2 外国語 6</td><td>選択
(0 以上
2 以下)</td><td>38 以上</td></tr>
<tr><td colspan="6">教養コア科目，基礎演習科目の合計 24 以上</td></tr>
<tr><td rowspan="13">理工学部</td><td rowspan="2">機械工学・材料系学科</td><td>機械工学 EP</td><td rowspan="2">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上
計 14 以上</td><td>4</td><td>4</td><td rowspan="2">英語実習 4 以上
英語以外の外国語 4 以上
計 10 以上</td><td rowspan="13">選択
(0 以上
2 以下)</td><td rowspan="13">36 以上</td></tr>
<tr><td>材料工学 EP</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td rowspan="3">化学・生命系学科</td><td>化学 EP</td><td rowspan="3">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">選択
(0 以上)</td><td rowspan="3">英語実習 6 以上
英語以外の外国語 4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>化学応用 EP</td></tr>
<tr><td>バイオ EP</td></tr>
<tr><td rowspan="4">建築都市・環境系学科</td><td>建築 EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td></td><td></td><td>英語実習 6 以上
英語以外の外国語 4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>都市基盤 EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>2</td><td>選択
(0 以上
3 以下)</td><td>英語実習 6 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>海洋空間のｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 4 以上
総合科目 2 以上</td><td>4</td><td>2</td><td>英語実習 6 以上
英語以外の外国語 4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>地球生態学 EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>2</td><td>2</td><td>英語実習 6 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">数物・電子情報系学科</td><td>数理科学 EP</td><td rowspan="4">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上，自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>2</td><td>4</td><td rowspan="4">英語実習 6 以上
英語以外の外国語 4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>物理工学 EP</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>電子情報システム EP</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>情報工学 EP</td><td>2</td><td></td></tr>
</table>

Ａ．学期

本学では１年間を２学期に分け，４月１日から９月３０日までを春学期，１０月１日から翌年３月３１日までを秋学期とし，それぞれ１５週以上，計３０週以上の授業を行います。

Ｂ．授業及び単位の基準等

授　業　科　目　等	単　　位
教養コア科目（講義，演習）	２単位
教養コア科目（実習）	１単位
情報リテラシー科目（講義，演習）	２単位
情報リテラシー科目（実習）	１単位
基礎演習科目（演習）	１単位または２単位
外国語科目（実習）	１単位
外国語科目（演習）	２単位
健康スポーツ科目（演習）	２単位

表中の単位とは，毎週１回１時限（２時間相当）を半期（１５週）履修すること（３０時間分に相当）により修得できる単位数のことを指します。

１単位の修得には４５時間の学修を必要とする内容（授業時間外の学習時間を含む）が必要です。このことから，授業時間外における予習・復習が必要とされています。

授業時間帯は次のように定められています。

１時限	８時５０分　～　１０時２０分
２時限	１０時３０分　～　１２時００分
３時限	１３時００分　～　１４時３０分
４時限	１４時４０分　～　１６時１０分
５時限	１６時１５分　～　１７時４５分
６時限	１７時５０分　～　１９時２０分

Ⅱ．教養教育科目の授業科目及び履修方法

Ａ．教養教育科目とは

教養教育科目とは**教養コア科目，情報リテラシー科目，基礎演習科目，外国語科目，健康スポーツ科目**を総称するものです。

１．教養コア科目

教養教育科目の中心となる科目群である教養コア科目は，基礎学力，論理的思考力，情報処理能力，問題解決能力などを育成することを目指しています。

教養コア科目は次の３つの科目群から構成されています。

○基礎科目：
人文社会系と自然科学系の各分野における基礎的な学力や技能を養う科目です。他の教養コア科目の基礎として位置付けられています。

○現代科目：
社会との関連や現代の課題など，共通性の高い，広い教養を培うにふさわしい科目です。基礎科目の発展形として位置付けられています。

○総合科目：
共通のテーマを異なる専門の複数の教員が担当する科目であり，多角的・総合的なアプローチを修得させることを目的としています。

２．情報リテラシー科目

情報化社会において必要不可欠な情報技術の利活用の方法を習得する科目です。コンピュータや特定のソフトウェアの使用法のみならず，情報機器とそれらの利用技術，及び倫理，法，マナーといった領域までをカバーし，情報化社会に生きる現代人としての最低限の教養の養成を目的とします。

３．基礎演習科目

基礎演習科目は大学での勉学の基礎となる知的思考能力を培うとともに，各学部，学科，課程の専門分野への橋渡しとなる授業です。それはそれぞれの専門分野への関心を高め，基礎的な問題解決能力を養うことを目的としています。それぞれの学部，学科，課程のカリキュラムに基づいて実施されており，専門性を念頭においた授業が行われています。

４．外国語科目

少人数クラス編成で，かつ客観的な成績評価に基づいた習熟度別クラス編成を行うことによって，各学生の到達度に応じた効果的な外国語教育を目指しています。また，外国語科目を「実習」と「演習」に複線化し，学生の多様な関心や意欲に応えることを目指しています。

５．健康スポーツ科目

健康スポーツ科目はスポーツに親しむことを通じ，一生を通じての心身の健康への関心を高め，心身のバランスのとれた学生を育成することを目標としています。

B．教養教育科目の履修基準等

教養教育科目の履修にあたっては卒業の要件，履修基準，学部・課程・学科教育プログラムなどの指定，必修・選択の別などに留意して，バランスのとれた選択となる履修が望まれます。なお，履修学年が指定されている授業科目は指定された学年で履修しておかないとその後の履修に支障をきたすことがあるので十分注意してください。

１．履修基準

（１） 教育人間科学部

教養教育科目は次に示された単位を履修してください。

<table>
<tr><th colspan="4">科　　目</th><th>単　　位</th><th></th></tr>
<tr><td rowspan="8">教養教育科目</td><td rowspan="4">教養コア科目</td><td rowspan="2">基礎科目</td><td>人文社会系</td><td>４以上（注１）</td><td rowspan="8">計３６以上</td></tr>
<tr><td>自然科学系</td><td>４以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">現代科目</td><td>２以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">総合科目</td><td>２以上</td></tr>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">基礎演習科目</td><td>４（学校教育課程）</td></tr>
<tr><td>２（人間文化課程）</td></tr>
<tr><td colspan="3">情報リテラシー科目</td><td>２</td></tr>
<tr><td colspan="3">外国語科目</td><td>８以上(１ヵ国語以上)（注２）</td></tr>
<tr><td colspan="3">健康スポーツ科目</td><td>２以上（注３）</td></tr>
</table>

（注１）教員免許状を取得する際は「日本国憲法」（２単位）が必修になります。学校教育課程は，教員免許状取得が卒業要件となっていますので，全員がこの授業を履修しなければなりません。
（注２）外国語科目の履修は，組み合わせる授業科目（セットで履修する等）の指定がある場合があります。この場合，指定どおり履修し単位を取得しないと，「卒業のために必要な外国語科目の単位」に算入されないことがあります。
（注３）学校教育課程のみ必修。人間文化課程においては選択（履修した場合は教養教育の単位に算入できます）。

①教養教育科目はいずれの課程においても３６単位以上を修得しなければなりません。

②学校教育課程においては基礎科目・人文社会系４単位，基礎科目・自然科学系４単位，現代科目２単位，総合科目２単位，情報リテラシー科目２単位，基礎演習科目４単位，外国語科目８単位，健康スポーツ科目２単位を履修し（小計２８単位），さらに教養教育科目の必修３６単位に不足する８単位を情報リテラシー科目及び基礎演習科目を除く教養教育科目の中から履修することになります。

③人間文化課程においては基礎科目・人文社会系４単位，基礎科目・自然科学系４単位，現代科目２単位，総合科目２単位，情報リテラシー科目２単位，基礎演習科目２単位，外国語科目８単位を履修し（小計２４単位），さらに教養教育科目の必修３６単位に不足する１２単位を情報リテラシー科目及び基礎演習科目を除く教養教育科目の中から履修してください。

（2）経済学部

教養教育科目は次の履修方法に従い４２単位以上を修得しなければなりません。

科　　目	履　　修　　方　　法
教養コア科目 情報リテラシー科目 基 礎 演 習 科 目 健康スポーツ科目	次の教養コア科目の科目区分の最低履修単位数を満たしたうえで，教養コア科目，情報リテラシー科目，基礎演習科目，健康スポーツ科目を合わせて２６単位以上 ただし，健康スポーツ科目は２単位までしか２６単位に算入できません。 科目区分：基礎科目　８単位以上 （人文社会系　４単位以上 自然科学系　４単位以上） 現代科目　２単位以上 総合科目　２単位以上
外 国 語 科 目	英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，朝鮮語，イスパニア語から２ヵ国語を選択 計１６単位（ただし１ヵ国語は１２単位まで）

（3）経営学部

教養教育科目３８単位以上の内訳は次のとおりです。

科　　目	履　　修　　方　　法
教 養 コ ア 科 目 基 礎 演 習 科 目	次の教養コア科目の科目区分の最低履修単位数を満たしたうえで，教養コア科目及び基礎演習科目を合わせて２４単位以上 基礎科目　８単位以上 （人文社会系　４単位以上, 自然科学系　４単位以上） 現代科目　２単位以上 総合科目　２単位以上
外 国 語 科 目	英語　８単位必修（実習６単位＋演習２単位） 英語以外の外国語（１または２ヵ国語）　６単位必修 （ただし，ギリシア語，ラテン語を除く）
健康スポーツ科目	選択（ただし，２単位までしか卒業資格に算入できません。）

（4） 理工学部

<table>
<tr><th colspan="3">学部学科等</th><th>教養コア科目</th><th>情報ﾘﾃﾗｼｰ科目</th><th>基礎演習科目</th><th>外国語科目</th><th>健康スポーツ科目</th><th>教養教育科目合計</th></tr>
<tr><td rowspan="12">理工学部</td><td rowspan="2">機械工学・材料系学科</td><td>機械工学 EP</td><td rowspan="2">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上
計 14 以上</td><td>4</td><td>4</td><td rowspan="2">英語実習 4 以上
英語以外の外国語
4 以上
計 10 以上</td><td rowspan="12">選択
(0 以上
2 以下)</td><td rowspan="12">36 以上</td></tr>
<tr><td>材料工学 EP</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td rowspan="3">化学・生命系学科</td><td>化学 EP</td><td rowspan="3">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td rowspan="3">1</td><td rowspan="3">選択
(0 以上)</td><td rowspan="3">英語実習 6 以上
英語以外の外国語
4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>化学応用 EP</td></tr>
<tr><td>バイオ EP</td></tr>
<tr><td rowspan="4">建築都市・環境系学科</td><td>建築 EP</td><td rowspan="2">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td></td><td></td><td rowspan="2">英語実習 6 以上
英語以外の外国語
4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>都市基盤 EP</td><td>2</td><td>選択
(0 以上
3 以下)</td></tr>
<tr><td>海洋空間のｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝ EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 4 以上
総合科目 2 以上</td><td>4</td><td>2</td><td>英語実習 6 以上
英語以外の外国語
4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>地球生態学 EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>2</td><td>2</td><td>英語実習 6 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">数物・電子情報系学科</td><td>数理科学 EP</td><td>基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 4 以上</td><td>2</td><td>4</td><td rowspan="4">英語実習 6 以上
英語以外の外国語
4 以上
計 10 以上</td></tr>
<tr><td>物理工学 EP</td><td rowspan="3">基礎科目 8 以上
（人文社会系 4 以上,
自然科学系 4 以上）
現代科目 2 以上
総合科目 2 以上</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>電子情報システム EP</td><td>2</td><td>4</td></tr>
<tr><td>情報工学 EP</td><td>2</td><td></td></tr>
</table>

（注）教養教育科目として認める単位数については理工学部の「履修案内」に従ってください。
※各学科・教育プログラムごとの履修方法については理工学部の「履修案内」に従ってください。

２．クラス編成

（１）教育人間科学部

別途配布される「教務上の諸注意」を参照してください。

（２）経済学部

教養コア科目の「微分積分Ⅰ」，「微分積分Ⅱ」，「線形代数Ⅰ」，「線形代数Ⅱ」について，１年次生のクラス分けを実施します。

英語科目に関しては履修者ごとにクラス分けを実施します。詳細は４月に掲示します。

（３）経営学部

必修の教養コア科目の「微分積分Ⅰ」，「微分積分Ⅱ」，「線形代数Ⅰ」，「線形代数Ⅱ」について，学科によるクラス分けを実施します。

英語科目については別にクラス編成をします。

※詳細は掲示板に掲示するので，各自確認してください。

（４）理工学部

外国語科目の英語実習及び１年次に開講する専門基礎科目及び教養教育科目の一部の授業科目についてクラス分けを実施します。詳細は４月のオリエンテーションで説明します。

３．履修上の一般的注意

（１）履修しようとする授業科目は春学期・秋学期それぞれに指定された期日までに履修登録しなければなりません。

（２）履修登録していない授業科目は履修できません。

（３）同一時間帯に２つ以上の授業科目を履修登録することはできません。

（４）学部・クラス・専攻などを指定している授業科目については，原則として指定されたもの以外は履修することはできません。

（５）授業科目によっては１授業科目について２名以上の教員が分担する場合があります。このような場合，すべての教員の授業を受けなければ単位は与えられません。

（６）教養コア科目，情報リテラシー科目及び基礎演習科目について，同じ名称の授業科目（例えば「心理学Ｂ」，「現代の経済Ａ」）は，異なる教員・期間に開講されていても１科目として数えます。

また，同じ名称の授業科目が１週間に複数開講されているものについては，特に指定がなければその中から１授業科目を選択しなければなりません。

（７）教室の収容定員などの都合により受講を制限することがあります。詳細は学期初めに掲示される案内を必ず確認してください。

（８）休講，教室変更，試験通知等についてはその都度掲示によって通知するので注意してください。

（９）受講手続きについてはこの冊子の「Ⅲ－Ａ．受講手続き」（p.23）を参照してください。

（10）その他不明な点は所属学部の学務担当係等（p5.「はしがき」参照）に問い合わせてください。

C．教養コア科目・情報リテラシー科目・基礎演習科目

１．教育人間科学部の履修方法

（１）教養コア科目

教養コア科目は次の各科目ごとの必修単位を修得します。（小計１２単位）

基礎科目・人文社会系：　４単位以上（教員免許状取得の場合は「日本国憲法」を含む）
基礎科目・自然科学系：　４単位以上
現代科目　　：　２単位以上
総合科目　　：　２単位以上

（２）情報リテラシー科目

①情報リテラシー科目は，専門分野を問わずに学習・研究を進めるうえで不可欠な存在となったコンピュータ利用方法の基礎として，ワープロソフトによる文章作成，表計算ソフトによる計算処理，インターネットの利用方法（情報モラルを含む）などを学ぶものです。
②教育人間科学部において情報リテラシー科目は１年次に２単位必修です。
③情報リテラシー科目のクラスについては，オリエンテーションの際に指示します。指定されたクラス以外での履修は原則としてできません。
④情報リテラシー科目の履修にあたっての詳細については開講時に指示するのでそれぞれの担当教員の指示に従ってください。

（３）基礎演習科目

①「基礎演習」は大学生としての基本的な種々のスキルを修得し，高学年時における効率的な学習を図るための演習形式の授業です。
②教育人間科学部学校教育課程において基礎演習科目は１年次に４単位必修です。人間文化課程においては１年次に２単位必修です。
③「基礎演習」のクラスについてはオリエンテーションの際に指示します。指定されたクラス以外での履修は原則としてできません。
④基礎演習科目の履修にあたっての詳細については開講時に指示するのでそれぞれの担当教員の指示に従ってください。

２．経済学部の履修方法

（１）教養コア科目

①卒業のために必要な教養コア科目，情報リテラシー科目，基礎演習科目，健康スポーツ科目の単位数は合計２６単位以上ですが，次の教養コア科目の科目区分については，それぞれに示す単位数以上履修しなければなりません。

科目区分：基礎科目　　８単位以上
（人文社会系　　４単位以上
自然科学系　　４単位以上）
現代科目　　２単位以上
総合科目　　２単位以上

②基礎科目・自然科学系の「微分積分Ⅰ・Ⅱ」及び「線形代数Ⅰ・Ⅱ」で講義される内容は，経済学の学習にとって非常に重要ですので，必修ではありませんが履修を推奨します。また基礎科目・人文社会系の「社会科学概論Ａ・Ｂ」は社会科学に関する広い視野を与える講義ですので履修を推奨します。

（２）情報リテラシー科目

情報リテラシー科目は大学における学習上不可欠な存在となったコンピュータの利用方法を学ぶものです。ワープロソフトによる文書作成，表計算ソフトによる計算処理，インターネットなどの「コンピュータ・リテラシー」，社会科学分野において不可欠なコンピュータを用いたデータ解析を扱う科目である「データ解析演習」の２科目を用意しています。後者は専門教育における統計学への橋渡しの役割を持った科目でもあります。「データ解析演習」は秋学期に開講され，春学期の「コンピュータ・リテラシー」の内容を前提として講義が行われます。したがって春学期に「コンピュータ・リテラシー」を履修したうえで秋学期に「データ解析演習」を履修してください。

（3）基礎演習科目

基礎演習科目として，１年次生を対象として春学期に「基礎演習」を開講しています。

基礎演習の目的は，大学生として必要となる基礎的な学習スキルを身につけることです。特に，大学生としての学習の方法を十分に理解し，文献の検索の仕方，論文や本の読み方，レポートや論文の書き方，プレゼンテーションの仕方などを学びます。また，授業の内容や素材は，経済学や法学に関するものが選ばれ，充実したものとなっています。

２０名程度の少人数のきめの細かい授業を基本としています。毎年１０クラス程度を開講し，１年次生は各クラスに割り振られます。割り振りに関する具体的手続きの詳細については，春学期初めのオリエンテーションで説明します。

３．経営学部の履修方法

卒業のために必要な教養コア科目と基礎演習科目の単位数は両科目を合わせて２４単位以上です。ただし，このうち次の教養コア科目の科目区分についてはそれぞれに示す単位数以上履修しなければなりません。

基礎科目　　８単位以上
（人文社会系　４単位以上
　自然科学系　４単位以上）
現代科目　　２単位以上
総合科目　　２単位以上

また，教養コア科目のうち，経営学部各学科で必修科目とするのは，以下の○印のある科目です。

	経営学科	会計・情報学科	経営システム科学科	国際経営学科
統計学Ⅰ－A	○	○	○	○
統計学Ⅱ－A				
微分積分Ⅰ	○	○	○	
微分積分Ⅱ				
線形代数Ⅰ		○	○	
線形代数Ⅱ				

４．理工学部の履修方法

理工学部「履修案内」及び，この冊子の「Ⅱ－B．教養教育科目の履修方法等」（p.10）の記述に注意して選択履修してください。

D．外国語科目

本学で開講される外国語科目は英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語，イスパニア語，ギリシア語，ラテン語及び日本語です。これらの外国語科目のうち，学部によっては履修できないものもあるので注意が必要です。ここでは平成 26 年度入学者を対象にした特記事項についてのみを記載しており，履修方法を一通り概括的に説明します。

各語学の詳しい内容や履修方法については，　p.37 以降を参照してください。

１．卒業に必要な外国語科目の単位数について

（1）教育人間科学部

１つ以上の外国語を８単位以上必修。

※２つ以上の外国語をあわせて８単位以上履修することもできます。外国語の必修８単位を超えて履修した場合には，学校教育課程においては合計１０単位まで，人間文化課程においては合計２０単位までを，「教養教育科目の単位」として算入することができます。

選択できる外国語は次のとおりです。

英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語，ギリシア語，ラテン語，イスパニア語

※外国人留学生が日本語科目を履修した場合，１外国語に代替することができます。（詳細は後述の「Ⅱ－Ｆ．外国人留学生のための授業科目」p.21 を参照）

（2）経済学部

２つの外国語を合計１６単位必修。

１つの外国語は１２単位を超えてはなりません。

※選択できる外国語は次のとおりです。

英語，ドイツ語，フランス語，イスパニア語，中国語，ロシア語，朝鮮語

（ギリシア語及びラテン語については，経済学部では，卒業に必要な単位数には算入されません）

※外国人留学生が日本語科目を履修した場合，１外国語に代替することができます。

（詳細は後述の「Ⅱ－Ｆ．外国人留学生のための授業科目」p.21 を参照）

（3）経営学部（昼間主）

英語：８単位（実習６単位＋演習２単位）必修。

英語以外の１または２外国語：６単位必修。

※選択できる外国語は次のとおりです。

ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語，イスパニア語

（ギリシア語及びラテン語については，経営学部では，単位を修得しても外国語科目には算入されません。卒業資格に関わる教養教育科目として算入されます）

※外国人留学生は日本語６単位を履修しますが，プレースメントテストで中級と判定された学生は，上記６単位に加えて「日本語中級」４単位を履修してください。

（4）理工学部

次の表に示すとおり，学科・教育プログラムごとに定められた単位数以上を履修してください。

機械工学・材料系学科		英語実習 4 以上 英語以外の外国語 4 以上	計 10 以上
化学・生命系学科		英語実習 6 以上 英語以外の外国語 4 以上	計 10 以上
建築都市・環境系学科	建築 EP	英語実習 6 以上 英語以外の外国語 4 以上	計 10 以上
	都市基盤EP	英語実習 6 以上	計 10 以上
	海洋空間のｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝEP	英語実習 6 以上 英語以外の外国語 4 以上	計 10 以上
	地球生態学 EP	英語実習 6 以上	計 10 以上
数物・電子情報系学科		英語実習 6 以上 英語以外の外国語 4 以上	計 10 以上

英語以外の外国語で選択できる外国語は次のとおりです。

ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語，イスパニア語，ギリシア語，ラテン語

※外国人留学生が日本語科目を履修した場合，１外国語（１ヵ国語）に代替することができます。

（詳細は後述の「Ⅱ－Ｆ．外国人留学生のための授業科目」p.21 を参照。）

２．履修の順序について

（１）英語を履修する場合

いずれの学部も，英語実習１の「４種類４単位」（S＋W＋ＬＲ春学期＋ＬＲ秋学期）が必修です。ただし，教育人間科学部・経済学部・経営学部の学生は，入学時の習熟度によっては別の履修順序が適用されます。英語実習１Ｓ，１Wについては，春学期と秋学期どちらとも開講していますが，１年次は春学期に単位を取得できなかった場合，年度内の秋学期に再履修することはできません。次年度再履修することとなりますのでご注意ください。また，再履修する際は必ず英語教育部への相談が必要となります。

凡例

S speaking　W writing　ＬＲ listening & reading　ＳＷ speaking and writing
ＡＤＷ academic discussion and writing　ＡＲＬ academic reading and listening

①教育人間科学部

１年次	英語実習１（S＋W＋ＬＲ春学期＋ＬＲ秋学期）「４種類４単位」必修
２年次以降	英語演習　選択

②経済学部

１年次	英語実習１（S＋W＋ＬＲ春学期＋ＬＲ秋学期）「４種類４単位」必修
２年次	英語演習（ＡＤＷ＋ＡＲＬ）「２種類４単位」必修
	英語演習 Advanced β　指定された学生のみ　４単位必修
３年次以降	英語演習 ＥＸＴ　英語を８単位を超えて履修する学生のみ　「２科目４単位」必修 経済学部が指定する学生に限り英語演習Advancedクラスを履修可能

〈入学時の習熟度によって指定された学生〉

１年次	英語実習 Advanced　４単位必修
２年次	英語演習 Advanced α　４単位必修
３年次以降	英語演習 ＥＸＴ　英語を８単位を超えて履修する学生のみ　「２科目４単位」必修 経済学部が指定する学生に限り英語演習Advancedクラスを履修可能

③経営学部

１年次	英語実習１（S＋W＋ＬＲ春学期＋ＬＲ秋学期）「４種類４単位」必修
２年次	英語実習２（ＳＷ＋ＬＲ）「２種類２単位」必修
	英語演習１種類２単位必修

〈帰国生徒等のうち所定の基準を満たした者〉

１年次	英語実習 Advanced　４単位必修
２年次	英語実習 ２（ＳＷ＋ＬＲ）「２種類２単位」必修，または英語実習Advanced２単位必修
	英語演習 １種類２単位必修

④理工学部

１年次	英語実習１（S＋W＋ＬＲ春学期＋ＬＲ秋学期）「４種類４単位」必修
２年次	英語実習２（ＳＷ＋ＬＲ）「２種類２単位」必修 ※機械工学EPは選択だが，原則として実習２を履修すること。
２年次以降	英語演習 ※機械工学EPの学生は卒業に必要な外国語科目の単位として履修することができる。

入学時の習熟度によって別の履修順序が適用される者の履修については p.40，所属する学部の「履修案内」等を参照してください。

（２）英語以外の外国語を履修する場合

英語・日本語以外の外国語について，**ここでは一般的な注意事項を概括的に説明します。詳しくは，p.37 以降を参照してください。**

初修外国語は 実習１→実習２→演習 の順序で進めていきます。
ただし実習１（春学期）が不合格になった場合は実習２（秋学期）へは進めません。

①教育人間科学部・理工学部

同一外国語では，「実習１」（１単位），「実習２」（１単位）を合わせて１セット（２単位）とし，合計「２セット４単位」までが「卒業に必要な外国語科目の単位」に算入されます。

「卒業に必要な外国語科目の単位」として認められるためには，実習１＋実習２が最少でも「１セット（２単位）」になっていることが必要です。「実習１」「実習２」を「セット」にせず，１単位だけ履修した場合は，「卒業に必要な外国語科目の単位」に算入することはできません。

ただし，「演習」に進むためには，その外国語の実習１＋実習２を「２セット４単位」揃えるようにしてください。

②経済学部

実習１＋実習２を１セット（２単位）として，同一外国語「２セット４単位」が必修です。

③経営学部

実習１＋実習２を１セット（２単位）として「２セット４単位」以上。

ただし，「演習」に進むためには，その外国語の「実習１」，「実習２」を「２セット４単位」揃えるようにしてください。

「卒業に必要な外国語科目の単位」として認められるためには，実習１＋実習２が最少でも「１セット（２単位）」になっていることが必要です。

ａ　「スピード履修方式」について

「２年次生になって新しい外国語に挑戦したいが，必修科目も多くなり外国語実習のために４コマも時間割を空けられない」「学びたい外国語は開講されるクラス数が少ない」

こうした事情から，場合によっては，１年間以上の時間をかけないと，中級レベルの「演習」に進むために必要な「実習１＋２」の「２セット４単位」を揃えることができない場合があります。

「スピード履修」とは，日本語及びイスパニア語を除く初修外国語において，通常とは異なり，「実習１セット２単位」を揃えれば，その外国語の「演習」に進むことができるようにする方式をいいます。

この「スピード履修」方式を利用して「演習」に進むことを希望する人は，以下の条件を満たす必要があります。

条件：

１．当該の外国語の履修を開始する年度の初めに申請すること。
２．その年度の春学期・秋学期に「実習１」・「実習２」を各１クラス履修登録し（１セット２単位），いずれも「優以上」の成績を収めること。
３．翌年度当初に実施する「スピード履修者認定試験」に合格すること。

注意事項

１．申請する科目の履修開始年度当初（**春学期履修登録の最終日まで**）に各学部の学務担当係に申請してください。申請用紙は学務担当係にあります。この申請が許可されるかどうかの結果については，申請した次の年度の春学期に履修登録前までに掲示にてお知らせします。
２．「スピード履修」を申請して履修登録をするとき，当該の外国語を春学期に１単位を超えて履修登録することはできません（秋学期も同様）。
３．「スピード履修」が許可されても，「卒業に必要な外国語の単位数」は変わりません。必要な数だけ「演習」を履修することになります。
４．この方式の履修が許可されて履修した「実習１」「実習２」において「優以上」の成績を収めることができなかった場合，あるいは続行を希望しない場合には，通常の履修方式で当該外国語の履修を継続することができます。

ｂ　実習の「スキップ履修」について

入学以前に学習した経験があるなど，一定の条件を満たしている場合，初級レベルの「実習」を履修せずに（「ス

キップ」して），中級レベルの「演習」から履修することができます。これを「スキップ履修」といいます。希望する人は，所定の手続きに従って申請し，許可を得てください。この「スキップ履修」をした場合でも，「卒業に必要な外国語の単位数」は変わりません。
必要な数だけ「演習」を履修することになります。
　初級レベルのスキップ履修は次の場合に可能です。

１．当該外国語の初級課程を高校その他の教育機関で学習したことがある者。
　この場合，証明する文書（成績証明書，履修証明書，検定合格証書等）の提出が必要です。
２．「大学入試センター試験」で当該外国語を受験した者。
３．当該外国語教育に関わる本学教員が実施する初級学力試験に合格した者。

　該当する者は（各学期の**履修登録の最終日の１週間前までに**）各学部学務担当係へ申し出てください。

（３）履修可能な外国語数について

　たとえ何ヵ国語を履修しても，学部によって「卒業に必要な単位」に算入できる外国語の数が限られていることがあります。詳しくは，p.7 の「教養教育履修基準表」や入学時に配布された所属学部の「履修案内」等をよく読み，学部の規定に従ってください＊。
＊教育人間科学部では「１外国語以上」の数の外国語を学ぶことを求めています。
＊経済学部では「外国語科目」は「２ヵ国語」を履修するように求めています。
＊経営学部では「英語」と「英語以外の外国語」を区別しており，「英語以外の外国語」は「１又は２ヵ国語」を履修するように求めています。
＊理工学部では学科により履修の基準が異なります。それぞれが所属する学科の履修基準をよく読んでください。

E．健康スポーツ科目

１．授業科目

学　　部	授　業　科　目	単位	学期	毎週授業時数	履修年次	備　考
教育人間科学部	健康スポーツ演習Ａ	２	春または秋	２	１	必修科目
学部共通	健康スポーツ演習Ｂ	２	春または秋	２	１～４	選択科目

注１．教員免許状修得希望者は健康スポーツ科目（２単位）を履修しなければなりません。
注２．健康スポーツ演習Ａは教員免許状取得における体育全般についての基礎的な知見の獲得を，健康スポーツ演習Ｂは健全な心身の発育発達の保障と運動習慣の体得を，それぞれの主目標として編成しています。
注３．健康スポーツ演習Ｂは各学部で定められた履修基準表に従って，教養教育科目の単位として算入できます。
注４．教育人間科学部学校教育課程の履修年次については，健康スポーツ演習Ａは１年次，健康スポーツ演習Ｂは２～４年次とします。

健康スポーツ科目の履修方法，履修上の注意については，p.61 を参照してください。

Ｆ．外国人留学生のための授業科目

教養教育科目の中で，外国人留学生だけが履修できる科目として，日本語科目と日本事情科目があります。

１．日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり，基本的な日本語力を育成する日本語実習と，それを発展させ，社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目を履修した場合，外国語科目に代えることができます。その詳細は下の表の通りです。

学　　部	代替できる外国語と単位	備　　考
教育人間科学部	１外国語８単位以上	
経済学部	１外国語１２単位以内	
経営学部	日本語実習科目４単位，日本語演習科目２単位，計６単位を英語以外の外国語へ	他の外国語を履修した場合でも，左記の日本語科目６単位は必修（※）
理工学部	日本語科目は，１外国語（１ヵ国語）へ読み替えられます。	

※なお，プレースメントテストで中級と判断された経営学部留学生は，上記６単位に加え，「日本語中級」４単位を履修しなければなりません。

日本語科目の評価については，授業への参加，小テスト，プレゼンテーション，中間の課題，期末の課題（試験またはレポート）などを評価基準とします。評価項目の詳細と評価の割合については，各科目のシラバスを参照してください。

すべての外国人留学生は入学時点でプレースメントテストを受け，日本語力のレベルによって，中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では，１年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので，注意してください。なお，「日本語・日本事情１」はＹＣＣＳの学生のみ対象のため，ＹＣＣＳ学生以外は履修登録できません。

１）中級者の場合

中級者とされた留学生は，日本語実習科目のうち，１年次春学期には日本語中級を履修します。日本語力を高め，大学での学習をスムーズに進めるため，できる限り多くの日本語中級クラスを受講することを，強く勧めます。１年次秋学期からは，日本語上級を履修します。日本語演習を履修することもできます。

２）上級者の場合

上級者は日本語中級を履修することはできません。１年次春学期から日本語上級を履修します。１年秋学期以降にも日本語上級，日本語演習を履修することをすすめます。

日本語科目の履修モデル（日本語教育担当教員が勧める履修単位数）

中　級　者	１年次春学期　　：日本語中級　４単位 １年次秋学期以降：日本語上級　４単位 日本語演習　２単位	合計１０単位
上　級　者	１年次春学期　　：日本語上級　２単位 １年次秋学期以降：日本語上級　２単位 日本語演習　２単位	合計　６単位

２．日本事情科目

日本事情科目は教養コア科目の現代科目の単位に代えることができます。

３．授業科目等

学部	授業科目			学期	単位数	履修年次	備考
学部共通	日本語科目	実習科目	日本語中級Ａ	春	1	１年次春学期	中級者向けクラスであり，上級者は履修できません。 中級者は１年次春学期に履修すること。
			日本語中級Ｂ	春	1		
			日本語中級Ｃ	春	1		
			日本語中級Ｄ	春	1		
			日本語中級Ｅ	春	1		
			日本語中級Ｆ	春	1		
			日本語中級Ｇ	春	2		
			日本語上級Ａ	春	1	１年次～４年次	中級者は１年次秋学期から履修できます。
			日本語上級Ｂ	秋	1		
			日本語上級Ｃ	秋	1		
			日本語上級Ｅ	秋	1		
			日本語上級Ｈ	春	1		
			日本語上級Ｊ	秋	1		
			日本語上級Ｋ	春	1		
			日本語上級Ｌ	春	1		
			日本語上級Ｍ	春	1		
		演習科目	日本語演習Ａ	秋	2	１年次秋学期～４年次	
			日本語演習Ｄ	秋	2		
			日本語演習Ｅ	春	2		
	日本事情科目		日本事情Ｇ	秋	2	１年次～４年次	教養コア科目の現代科目の単位に代えることができます。

Ⅲ．受講手続き等について

Ａ．受講手続き

１．授業科目を受講するためには履修登録を行わなければなりません。

２．履修登録の方法及び日程については所属学部のオリエンテーションで指示，または掲示します。特に英語実習科目はクラスが指定されるため，必ず掲示の確認をしてください。

３．履修登録は春学期開講科目（通年科目を含む）については春学期履修登録期間に，秋学期開講科目については秋学期履修登録期間に行わなければなりません。

４．**教養教育科目の履修登録は春学期２０単位，秋学期２０単位が上限です。この上限を超えて履修登録はできないので十分注意してください。ただし，休業期間中に開講される，別に掲示する集中講義を除く。**
なお，各学部において「短期派遣留学又はその候補生（留学後を含む。）※」に決定された学生は，各学部で定めた単位数まで緩和されます。緩和される単位数については，所属学部の学務担当係に確認してください。
※短期派遣留学には，海外サマースクール，海外での短期集中講座の学修，海外インターンシップ，国際ボランティア活動等に従事することを各学部において認められた者を含む。

５．履修登録後は登録した科目の変更は認められません。

６．授業科目によっては，教室の収容能力により受講調整を行った後，受講を認められた者のみに履修登録を許可することがあります。このような授業科目では，事前に履修希望を申し出なかった者（受講調整実施日の授業に出席しなかった者）は履修できません。

７．履修登録後に各自が必ず学務情報システムから履修時間割表を印刷し内容を確認してください。履修確認・訂正期間後に本人の確認不足等の理由で履修登録科目の訂正を申し出ても，認められないので注意してください。

８．履修登録後，登録授業科目を履修しない場合（授業内容が予想と異なっていた等）は履修科目キャンセル期間中に履修のキャンセル手続きを行うことができます。手続きをしない場合は当該授業科目の評価は「不可」となり，GPA の計算上不利になるので注意してください。

Ｂ．試験

１．授業科目の単位は，原則として試験を行ったうえでその成績によって与えられます。

２．試験は原則として学年暦によって定められた春学期及び秋学期の終わりに行いますが，学期の途中に行うこともあります。

３．試験は通常は筆記試験によりますが，教員によっては筆記試験とレポートを併用する場合，またはレポートだけで行うことがあります。この場合は指定された提出先へ期間内に提出しなければなりません。

４．再試験（何らかの事情により一度行った試験を最初からやり直すこと）は，原則として行いません。

５．次の(ア)～(エ)に該当する事由により当該学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には，当該科目について追試験の実施を申請することができます。
(ア) 本人の疾病又は負傷（医師の診断書を必要とする）
(イ) 両親又は同居の親族の死亡（事実を確認できる書類を必要とする）
(ウ) 交通機関の著しい遅延・運休（事実を証明する書類を必要とする）
(エ) その他，部局長がやむを得ない理由があると認めたとき
追試験の実施を申請する際は，所属学部の学務担当係まで申し出てください。
詳細は本学ホームページを参照してください。http://www.ynu.ac.jp/campus/procedure/supplementary.html

C．受験上の注意事項

1．定められた期間に行う試験については別に試験時間割を発表します。なお，試験時間割は通常の授業時間割と異なることがあるので掲示に特に注意してください。

2．定められた期間以外に行う試験については授業の際に発表し，特に掲示をしないことがあるので注意してください。

3．受験の際は必ず学生証を机上に提示してください。

4．遅刻は特別な事情がある場合に限り，試験開始後２０分まで認められます。退出は試験開始後３０分以後でなければ認められません。

5．試験の実施要領や受験注意事項の詳細については，各学部の履修案内や掲示を参照してください。

D．学業成績

1．学業成績は試験（またはレポート）の結果，出席状況及び通常の授業における学習態度等を加味して総合判定し，「可」以上に達した者に対して当該授業科目の単位が与えられます。

2．本学では GPA（Grade Point Average）制度が導入されています。GPA はそれぞれの評価に GP（Grade Point）を与え，学生の個々の履修科目の GP にその科目の単位数をかけ，その総和を履修登録科目の総単位数で除することによって算出されます。
なお，学部により GPA に算定されない授業科目があるので，所属する学部の「履修案内」等を熟読してください。「評価点」とはシラバスに記載している「成績評価の基準」によって各教員が算出している点数であり，必ずしも期末試験等の点数と同じではありません。

評　価	Ｇ　Ｐ	評　　価　　点
秀	４．５	１００－９０点
優	４	８９－８０点
良	３	７９－７０点
可	２	６９－６０点
不可	０	５９点以下

3．上記の評価のうち「秀」「優」については以下の基準に沿って成績評価を行います。

（1）成績評価は，シラバスに示す評価の重みづけを加味した到達度評価とする。
（2）「優」は，履修目標を十分達成していること。
（3）「秀」は，履修目標を十分達成しており，さらに履修目標を上回る成績をおさめていること。なお，「秀」は「優」の中においても特に秀でた成績をおさめていると判断された者の評価となる。

4．評価が「不可」である場合に限り，再履修することができます。
再履修した場合，成績は再履修後のものが採用されます。

5．個別成績表は年２回配布します。配布時期や方法等の詳細については学部により異なりますので，別に掲示します。

E．ＧＰＡ制度導入による再履修のための科目について

履修の結果「不可」の成績が与えられた場合には，再履修が認められます。再履修については，p.67 を参照してください。

教養教育履修案内【全学生適用】

A．教養コア科目，情報リテラシー科目及び基礎演習科目

「教養コア科目」はそれぞれの学部で定められた授業科目と単位を１年次から４年次にわたって履修することになっています。

「情報リテラシー科目」，「基礎演習科目」については，学部ごとに履修年次が定められているので，指定された年次に履修しなければなりません。そのため，各学部を卒業するための履修基準とも照らし合わせて４年間の履修計画を立てる必要があります。

また，「総合科目」の授業は，春学期１科目，秋学期１科目の年間２科目のみ受講できます。

１．教養コア科目，情報リテラシー科目

（１）基礎科目　人文社会系

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9001001	春	木	4	心理学A	福田 幸男	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001002	春隔週	木	4.5	心理学B	堀井 俊章	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001003	春	月	3	心理学B	佐野 泉	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001004	春	月	2	日本の近代文学	一柳 廣孝	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001005	秋	木	4	日本語を教えよう	河野 俊之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001006	春	月	4	日本の言語	古田 恵美子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001007	春	水	2	中国の古典文学	髙芝 麻子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001008	春	火	4	日本の古典文学	三宅 晶子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001009	春	月	3	心理学史	鈴木 朋子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001010	春	木	3	障害と周辺領域Ⅰ	松下 浩之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001011	秋	月	2	地誌学概論	池口 明子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001012	秋	月	3	日本近現代史	加藤 千香子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001013	春	木	3	日本前近代史	多和田 雅保	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001014	春	金	3	教育と法	北川 善英	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001015	春	木	3	倫理学	下城 一	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001016	秋	木	4	諸民族の音楽と文化	丸山 洋司	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001017	秋	火	2	音楽の基礎	大瀧 郁彦	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001018	秋	木	3	基礎造形A	原口 健一	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001019	秋	木	4	音楽と自然	島田 広	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001020	春	火	3	民族音楽学入門	金光 真理子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001021	春	月	4	色彩論	渡辺 邦夫	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001022	秋	木	4	水彩画基礎技術	赤木 範陸	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001023	春	火	3	美術の見かた	小池 研二	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001024	春	月	3	逸脱行動の社会学	渡部 真	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001025	秋	木	3	現代社会論	片岡 浩二	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001026	秋	火	3	民主主義－理論と実証	鎌原 勇太･近藤 久洋	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001028	秋	火	4	現代芸術論	樗沼 範久	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001029	春	金	3	文化人類学の考え方	松本 尚之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001030	春	金	2	現代の経済A	虞 朝聞	2	教･営･工･理	1～4	文化と人間社会	
9001031	春	木	3	現代の経済A	亀卦川 芽以	2	教･営･工･理	1～4	文化と人間社会	

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9001032	秋	木	3	現代の経済B	亀卦川 芽以	2	教･営･工･理	1～4	文化と人間社会	
9001033	秋	金	2	現代の経済B	虞 朝聞	2	教･営･工･理	1～4	文化と人間社会	
9001034	秋	火	1	現代政治(国際)	加藤 雅俊	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001035	秋	金	3	現代政治(日本)	上原 賢司	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001036	春	金	4	社会科学の方法	板井 広明	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001037	秋	金	4	社会科学の歴史	板井 広明	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001038	春	火	3	社会科学概論A	小畑 俊太郎	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001039	秋	火	3	社会科学概論B	小畑 俊太郎	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001040	秋	火	3	法と人間	米村 幸太郎	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001041	春	火	3	法学概論	竹内 明世	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001042	春	月	4	日本国憲法	松井 直之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※1
9001043	春	月	5	日本国憲法	松井 直之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※1
9001044	秋	月	4	日本国憲法	松井 直之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※1
9001045	秋	月	5	日本国憲法	松井 直之	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※1
9001046	秋	火	2	現代と法	川瀬 真	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001047	春	木	5	アカデミック・リテラシー －YNU学びの羅針盤－	安野 舞子	2	【共通】	1	文化と人間社会	
9001048	春	火	2	伝統社会と近代社会	志田 基与師	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9001050	秋	木	4	Advertisement Art #1	塩谷 久米夫	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001051	春	木	4	Advertisement Art #2	塩谷 久米夫	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001052	秋	木	5	Studio Workshop #1	青木 直人	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001053	春	木	5	Studio Workshop #2	青木 直人	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001054	秋	木	5	Studio Workshop #3	鈴木 雅久･山本 泰生	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001055	秋	金	3	Elements of Linguistic Knowledge #1	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001056	春	金	3	Elements of Linguistic Knowledge #2	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001057	秋	金	4	Transcultural UnderStanding through English	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9001059	春	金	4	Arabic language and its Culture	吉田 昌平	2	【共通】	2～4	文化と人間社会	※2

※1　教員免許状取得希望者は日本国憲法２単位を必修とします。
※2　授業は英語で行われます。

（２）基礎科目　自然科学系

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9002001	春	火	3	自然史科学概論	西 栄二郎	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002002	秋	木	3	気象学入門	筆保 弘徳	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002003	春	月	3	微積分の基礎と応用	茨木 貴徳	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002004	秋	火	4	数学ソフトウェアで学ぶ数学	馬場 裕	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002005	春	火	4	実験で学ぶ物理学A	平島 由美子	2	教･済･営	1～4	自然と科学技術	
9002006	秋	木	3	実験で学ぶ物理学B	平島 由美子	2	教･済･営	1～4	自然と科学技術	
9002007	春	火	4	動力とエネルギー	山本 郁夫	2	教･済･営	1～4	自然と科学技術	
9002009	秋	火	4	Webページ作成入門	山本 光	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002010	秋	火	3	生物学から見たヒト	種田 保穂	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002011	秋	火	3	生態学入門	宮本 康司	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9002012	春	木	3	統計学Ⅰ－A	伊藤 有希	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※3
9002013	秋	木	3	統計学Ⅱ－A	本橋 永至	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※3
9002014	春	火	5	統計学Ⅰ－C	辻 裕之	2	工・理	2～4	自然と科学技術	
9002015	秋	月	5	統計学Ⅱ－C	辻 裕之	2	工・理	2～4	自然と科学技術	
9002016	春	金	3	コンピューターで学ぶ統計学A	千島 昭宏	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002017	秋	金	3	コンピューターで学ぶ統計学B	千島 昭宏	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002018	秋	木	4	地球と惑星の科学	中島 隆	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002019	春	火	3	古生物の科学	間嶋 隆一	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002020	春	火	4	生物の社会	持田 幸良・菊池 知彦	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002021	秋	木	4	応用地質学	小長井 一男	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002022	春	火	3	化学の世界A(物質観としての化学)	松本 雄二	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002023	春	月	2	化学の世界B(生活の化学)	鵜川 彰人	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002024	秋	月	2	化学の世界C(環境の化学)	安田 憲二	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002025	秋	木	2	化学の世界D(生命の化学)	宮本 悦子	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002026	春	火	4	名誉教授と学ぶ数理科学そぞろ歩き	影井清一郎・高野清治・北田泰彦・石井六哉	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002027	春	木	4	情報科学	岡嶋 克典	2	済・営	1～4	自然と科学技術	
9002028	秋	木	4	情報科学	影井 清一郎	2	済・営	1～4	自然と科学技術	
9002029	春	火	3	図形科学	内野 泰伸	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※4
9002030	春	木	3	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※4
9002031	春	木	4	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※4
9002032	春	火	4	図形科学	内野 泰伸	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※4
9002033	秋	木	3	図形科学	金田 徹	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※4
9002034	春	木	2	数理科学Ⅰ	玉野 研一	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002035	春	木	3	数理科学Ⅰ	玉野 研一	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002036	秋	木	2	数理科学Ⅱ	野間 淳	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002037	秋	木	3	数理科学Ⅱ	玉野 研一	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002038	春	月	3	線形代数Ⅰ	加田 修	2	教・済	1～4	自然と科学技術	
9002039	春	月	3	線形代数Ⅰ	伊澤 康充	2	経営	1～4	自然と科学技術	※5
9002040	春	月	4	線形代数Ⅰ	加田 修	2	済・営	1～4	自然と科学技術	※5
9002041	春	水	1	線形代数Ⅰ	眞中 裕子	2	経営	1～4	自然と科学技術	※5
9002042	秋	月	3	線形代数Ⅱ	加田 修	2	教・済	1～4	自然と科学技術	
9002043	秋	月	3	線形代数Ⅱ	伊澤 康充	2	経営	1～4	自然と科学技術	※5
9002044	秋	月	4	線形代数Ⅱ	加田 修	2	済・営	1～4	自然と科学技術	※5
9002045	秋	水	1	線形代数Ⅱ	眞中 裕子	2	経営	1～4	自然と科学技術	※5
9002046	春	木	1	微分積分Ⅰ	加納 浩之	2	経済	1～4	自然と科学技術	
9002047	春	木	2	微分積分Ⅰ	加納 浩之	2	経済	1～4	自然と科学技術	
9002048	春	水	1	微分積分Ⅰ	佐藤 健治	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6
9002049	春	金	1	微分積分Ⅰ	平田 康史	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6
9002050	春	金	2	微分積分Ⅰ	平田 康史	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6
9002051	秋	木	1	微分積分Ⅱ	加納 浩之	2	経済	1～4	自然と科学技術	
9002052	秋	木	2	微分積分Ⅱ	加納 浩之	2	経済	1～4	自然と科学技術	
9002053	秋	水	1	微分積分Ⅱ	佐藤 健治	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6
9002054	秋	金	1	微分積分Ⅱ	平田 康史	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6
9002055	秋	金	2	微分積分Ⅱ	平田 康史	2	経営	1～4	自然と科学技術	※6

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9002056	春	火	4～5	体験物理科学A	野村 高一・君嶋 義英	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※7
9002057	秋	火	4～5	体験物理科学B	野村 高一・君嶋 義英	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※7
9002058	春	木	5	物理の世界A	野村 高一	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002059	秋	木	5	物理の世界B	野村 高一	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	
9002060	春	火	4～5	基礎から学ぶ化学	松本 雄二	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※7
9002061	秋	火	4～5	基礎から学ぶ化学	松本 雄二	2	教・済・営	1～4	自然と科学技術	※7
9002062	春	木	2	エネルギー工学序論	奥山 邦人・光島 重徳	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※8,9
9002063	秋	月	4	ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑとｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	河野 隆二・杉本 千佳・森 辰則	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※9
9002064	秋	月	2	理工学部生のための数理モデリング	森下 信・石塚 辰美	2	工・理	1～4	自然と科学技術	※10
9002065	春	月	2	先端機器分析入門	吉原 美知子	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9002066	春	火	3	モバイルプログラミング	天野 英明	2	【共通】	2～4	自然と科学技術	
9002067	秋	火	3	モバイルプログラミング	天野 英明	2	【共通】	2～4	自然と科学技術	
9002068	秋	月	2	ICT Literacy	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2
9002069	秋	月	3	Modeling with Calculus and Algebra	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2
9002070	秋	火	4	Applicable Computing	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2
9002071	春	月	2	Cyber Studies	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2
9002072	春	月	3	ICT Project	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2
9002073	春	火	4	Modeling with Statistics	永野 寛	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※2

※3　経営学部全学科の必修科目。
※4　「図学Ⅰ」（専門基礎科目）と重複して単位を取得することはできません。また，「図学Ⅰ」を開講していない学部及び学科を優先します。
※5　経営学部「会計・情報学科，経営システム科学科」の必修科目。
※6　経営学部「経営学科，会計・情報学科，経営システム科学科」の必修科目。
※7　工学部２００２年度以前入学者のうち，「物質工学科，知能物理工学科」の学生は履修できません。
※8　理工学部「化学・生命系学科」の準必修科目，工学部「物質工学科」の選択必修科目のため，履修制限時にはこれらの学科が優先履修となります
※9　「エネルギー工学序論」及び「コンピュータシステムとコミュニケーション」を平成２１年度以前に履修した学生の再履修は，現代科目から別の科目を選択してください。現代科目欄の再履修科目とはなりませんのでご注意ください。
※10　日韓共同理工系学部留学生（予備教育学生も含む）の履修を優先し，受講人数は 30 名を限度とします。

（３）現代科目

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003001	秋	木	3	教育学(教育と人間)	渡部 真	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003002	春	月	4	教育学(教育と人間)	藤井 佳世	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003003	春	月	2	教育学(教育と人間)	大戸 安弘	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003004	秋	月	2	消費社会と共育	本間 理絵	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003005	春	月	3	金融リテラシー入門	西村 隆男	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003006	秋	月	3	衣生活の科学	薩本 弥生	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003007	春	月	2	おいしさの科学	大田原 美保	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003008	春	木	4	老年学−人生90年のマネジメント−	工藤 由貴子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003009	秋	木	3	生涯発達論	園田 菜摘	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003010	春	火	4	職業と教育	横尾 恒隆	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003011	春	月	2	人と動物の関係学	安藤 孝敏	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003012	春	木	2	特別活動研究	犬塚 文雄	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003013	春	月	2	バイリンガルへのロードマップ	林部 英雄	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003014	春	火	3	特別支援教育入門	関戸 英紀 他	2	教育	1～4	文化と人間社会	
9003015	秋	火	3	特別支援教育入門	軍司 敦子 他	2	教育	1～4	文化と人間社会	
9003016	秋	火	4	木材と人間	小林 大介	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003017	春	集中		学外活動(教育ボランティア)	小池 研二	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※11
9003018	秋	集中		学外活動(教育ボランティア)	小池 研二	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※11
9003019	春	月	2	学校教育最前線	髙木 展郎・他	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003020	秋	火	4	地域連携と都市再生B	高井 正	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※12
9003021	秋	木	4	現代の物流経営	松井 美樹	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※12
9003022	春	木	4	現代の社会と会計	大森 明	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003023	秋	木	2	情報と社会	室井 尚	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003024	春	火	3	材料学入門	福富 洋志	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※13,14
9003025	春	火	5	材料学入門	福富 洋志	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※13,14
9003026	春	木	3	安全・環境と社会	藤江 幸一・他	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※8
9003027	春	木	6	生態工学	目黒 伸一	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003028	春	火	1	地球環境と情報	大矢 勝	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003029	秋	月	6	科学技術史	庄司 高太	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003030	秋	水	3	建築の環境と防災	佐土原 聡・他	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※12,15,16
9003031	春	月	5	地域連携と都市再生A	内海 宏・志村 真紀	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※12
9003032	秋	火	3	土木史と技術者倫理	細田 暁	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	※17
9003033	秋	木	4	応用気象学	上野 充	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003034	春	月	3	海事技術史	南 清和	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003035	春	火	3	フラクタル	西村 尚史	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003036	春	火	3	エネルギーと環境	辻 隆男	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003037	春	火	3	環境リスクとつきあう	金子 信博・他	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003038	秋	火	4	国際理解1(留学生支援入門)	藤井 桂子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003039	秋	水	2	国際理解12(日本語をめぐる国際交流史)	小川 誉子美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003040	秋	金	3	国際理解4(日韓比較文化論)	金 蘭美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003041	秋	火	3	情報ネットワークシステム入門	徐 浩源	2	【共通】	1～4	自然と科学技術	
9003042	春	集中		地域課題実習Ⅰ	志村 真紀・他	1	【共通】	1～4	文化と人間社会	※12
9003043	秋	集中		地域課題実習Ⅱ	志村 真紀・他	1	【共通】	1～4	自然と科学技術	※12
9003044	春	木	4	技術と経営:会社とは	石塚 辰美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003045	春	金	4	アントレプレナー入門	石塚 辰美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003046	秋	木	4	実践新商品企画	梅野 匡俊・石塚 辰美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003047	春	月	2	キャリアデザインA	市村 光之	2	【共通】	1～2	文化と人間社会	
9003048	秋	月	2	キャリアデザインB	市村 光之	2	【共通】	1～2	文化と人間社会	
9003049	秋	金	2	キャリアデザインC	市村 光之	2	【共通】	3～4	文化と人間社会	
9003050	秋	水	3	ビジネス・コミュニケーション	市村 光之	2	【共通】	2～4	文化と人間社会	
9003051	秋	金	4	キャリア・ケーススタディ	市村 光之	2	【共通】	2～4	文化と人間社会	
9003052	春	水	2	Wake up! プロジェクト	市村 光之	2	【共通】	1	文化と人間社会	
9003053	春	水	5	大学生からの社会人基礎力ー企業課題を通じた実践的授業ー	安野 舞子	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	
9003054	秋	金	5	危機管理学	上原 美都男	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003055	秋	火	3	Community Studies	長谷川 健治	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003056	秋	水	3	Multicultural Practice	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003057	秋	水	3	Management and Facilitation	別途掲示	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003058	秋	木	3	Multicultural Project #1	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003059	春	木	3	Multicultural Project #2	吉田 昌平	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003060	秋	未定	未定	Plagiarism and its Regulations	別途掲示	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003061	秋	不定期		Traditional Perspectives in Japan	直井 明	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2
9003062	秋	火	3	Aspects of Japanese Society and Culture	アンドラディ 久美	2	【共通】	1～4	文化と人間社会	※2

※11　この科目は教員免許状取得を希望しない学生は履修できません。教育人間科学部の「学外活動・学外学習Ⅱ」と重複して単位を取得することはできません。

※12　この科目は地域交流科目です。教養コア科目としても履修できます。地域交流科目については別冊子をご覧ください。

※13　理工学部「材料工学 EP」の必修科目。

※14　工学部「生産工学科」の「ものの強さと強さの仕組み」を修得した者は履修できません。

※15　工学部「建設学科建築学コース」の学生は履修できません。

※16　理工学部「建築都市・地球環境学科　建築 EP」の学生は履修できません。

※17　工学部「建設学科都市基盤コース」及び理工学部「建築都市・環境系学科都市基盤教育プログラム（EP）」の必修科目。

（４）総合科目

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003101	春	木	4	歴史と現在	多和田 雅保・他	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003102	秋	木	4	サイエンスと現代社会	平島 由美子・他	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003103	春	月	2	数学的思考法	山本 光・他	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003104	秋	木	3	日本文化の形と伝承の諸相	三宅 晶子・他	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003105	春	月	2	経済学の考え方Ⅰ	加島 潤	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003106	秋	月	2	経済学の考え方Ⅱ	熊野 太郎	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003107	春	火	5	経営者から学ぶリーダーシップと経営理論	井上 徹・他	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003108	秋	火	5	ベンチャーから学ぶマネジメント	井上 徹・他	2	【共通】	1～4	総合領域	※12
9003109	春	火	5	アカデミック・トークA	公文 蔵人・他	2	教・済・工・理	1～4	総合領域	
9003110	春	火	2	アカデミック・トークB	木村 晃久・他	2	教・済・工・理	1～4	総合領域	
9003111	秋	金	5	アカデミック・トークC	本橋 永至・他	2	教・済・工・理	1～4	総合領域	
9003112	春	木	1	アカデミック・トークD	真鍋 誠司・他	2	教・済・工・理	1～4	総合領域	
9003113	春	水	4	機械工学と社会とのかかわり合い	伊藤 光一郎・中邨 隆	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003114	春	水	4	機械工学と社会とのかかわり合い	藪田 哲郎	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003115	春	木	4	物質工学と社会	仁志 和彦・他	2	【共通】	1～4	総合領域	※8
9003116	秋	月	4	都市と建築	藤原 徹平・他	2	【共通】	1～4	総合領域	※18,19
9003117	春	木	3	土木工学と社会	椿 龍哉・他	2	【共通】	1～4	総合領域	※17
9003118	秋	月	3	海洋工学と社会	海洋空間のｼｽﾃﾑﾃﾞｻﾞｲﾝEP各教員	2	【共通】	1～4	総合領域	※20
9003119	秋	火	3	数理科学概論	野間 淳・数理科学EP各教員	2	【共通】	1～4	総合領域	※21
9003120	春	金	4	物理工学概論	上原 政智・物理工学EP各教員	2	【共通】	1～4	総合領域	※22,23,24
9003121	秋	火	3	電子情報システム概論	増田 純夫・電子情報システムEP各教員	2	工・理	1	総合領域	※23
9003122	春	金	3	情報工学概論	長尾 智晴・情報工学EP全教員	2	工・理	1	総合領域	※23,25
9003123	秋	火	4	環境をめぐる諸問題	酒井 暁子・他	2	【共通】	1～4	総合領域	※12

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003124	春	月	2	システム・エンジニアリング	田村 直良	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003125	秋	水	5	横浜学--地域の再発見--	安野 舞子	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003126	秋	木	4	情報通信技術が培う近未来医療	塩見 正・河野 隆二	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003127	秋	火	4	ライフキャリアを考える	鈴木 紀子	2	【共通】	1～4	総合領域	
9003128	秋	月	4	Collaborative Studies #1	鈴木 雅久・山本 泰生	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003129	春	月	4	Collaborative Studies #2	鈴木 雅久・山本 泰生	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003130	秋	月	4	Collaborative Studies #3	鈴木 雅久・山本 泰生	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003131	春	火	3	Urban Dynamism of Yokohama	長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003132	秋	不定期		Multicultural Team-works #1	長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003133	春	不定期		Multicultural Team-works #2	長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003134	秋	不定期		Instruction and Document Design #A1	鈴木 雅久・吉田 昌平・山本 泰生・長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003135	春	不定期		Instruction and Document Design #A4	鈴木 雅久・吉田 昌平・山本 泰生・長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003136	秋	不定期		Instruction and Document Design #B1	鈴木 雅久・吉田 昌平・山本 泰生・長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2
9003137	秋	不定期		Instruction and Document Design #B4	鈴木 雅久・吉田 昌平・山本 泰生・長谷川 健治	2	【共通】	1～4	総合領域	※2

※18　工学部「建設学科建築学コース」の学生は履修できません。
※19　理工学部「建築都市・地球環境学科　建築 EP」の学生は履修できません。
※20　工学部「建設学科海洋空間のシステムデザインコース」及び理工学部「建設学科海洋空間のシステムデザイン EP」の必修科目。
※21　理工学部「数理科学 EP」の必修科目。
※22　工学部「知能物理工学科」の必修科目。「教養としての先端物理科学」の読替科目。
※23　理工学部「数理科学 EP」の選択必修科目。
※24　理工学部「数物・電子情報系学科の物理工学 EP」の必修科目。
※25　理工学部「情報工学 EP」の必修科目。

（５）情報リテラシー科目

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003501	春	月	2	コンピューティング	大島 聡	2	教育	1	コンピューティング	
9003502	春	木	3	コンピューティング	河潟 俊吾	2	教育	1	コンピューティング	
9003503	春	木	4	コンピューティング	河潟 俊吾	2	教育	1	コンピューティング	
9003504	秋	月	2	コンピューティング	大島 聡	2	教育	1	コンピューティング	
9003505	秋	木	3	コンピューティング	但馬 文昭	2	教育	1	コンピューティング	
9003506	秋	木	4	コンピューティング	鬼藤 明仁	2	教育	1	コンピューティング	
9003507	春	火	2	コンピューティング	今里 淳	2	教育	1	コンピューティング	
9003508	春	金	4	コンピューティング	今里 淳	2	教育	1	コンピューティング	
9003509	春	金	4	コンピューティング	星野 好晃	2	教育	1	コンピューティング	
9003601	春	木	2	コンピュータ・リテラシー	王 歓	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003602	春	火	3	コンピュータ・リテラシー	陳 璟輝	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003603	春	月	2	コンピュータ・リテラシー	久米 良光	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003604	春	月	3	コンピュータ・リテラシー	久米 良光	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003605	春	火	2	コンピュータ・リテラシー	陳 璟輝	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003606	春	水	2	コンピュータ・リテラシー	桑波田 浩之	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003607	春	水	3	コンピュータ・リテラシー	桑波田 浩之	2	経済	1～4	コンピューティング	

時間割コード	期間	曜日	時限	授業科目名	教員名	単位	対象学部	対象学年	旧カリ生読替区分	備考
9003608	秋	月	4	データ解析演習	陳 璟輝	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003609	秋	月	2	データ解析演習	久米 良光	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003610	秋	月	3	データ解析演習	久米 良光	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003611	秋	水	2	データ解析演習	桑波田 浩之	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003612	秋	水	3	データ解析演習	桑波田 浩之	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003613	秋	火	2	データ解析演習	章 沙娟	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003614	秋	火	3	データ解析演習	章 沙娟	2	経済	1～4	コンピューティング	
9003801	秋	水	1	コンピューティング演習	前田 雄介	2	工・理	1	コンピューティング	※26,27
9003802	秋	水	1	コンピューティング演習	松井 和己	2	工・理	1	コンピューティング	※26,27
9003803	春	水	1	コンピュータ科学入門	白石 俊彦	2	工・理	1	コンピューティング	※26,28
9003804	春	水	1	コンピュータ科学入門	森下 信	2	工・理	1	コンピューティング	※26,28
9003805	春	木	1	計算工学基礎	山田 貴博	2	工学	2	コンピューティング	※29
9003806	春	木	1	計算工学基礎	中野 健	2	工学	2	コンピューティング	※29
9003807	秋	水	1	コンピューティング	中津川 博	2	理	1	コンピューティング	※30,31
9003808	秋	水	3	化学・生命情報処理演習	澁谷 忠弘・川村 出	1	工・理	1	コンピューティング	※32
9003809	秋	水	3	化学・生命情報処理演習	松澤 幸一・中尾 航	1	工・理	1	コンピューティング	※32
9003810	春	木	5	バイオ情報演習	小泉 淳一・他	1	工・理	1	コンピューティング	※33
9003811	秋	水	1	ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝのための情報ﾘﾃﾗｼｰ	菊本 統	2	工・理	2	コンピューティング	※17,41
9003812	春	金	2	数値情報処理Ⅰ	樋口 丈浩	2	工・理	2	コンピューティング	※34
9003813	秋	金	1	数値情報処理Ⅱ	樋口 丈浩	2	工・理	2	コンピューティング	※34
9003814	秋	月	5	自然環境情報処理	小池 文人, 地球生態学EP各教員	2	工・理	1	コンピューティング	※35
9003815	春	火	3	数理科学のための情報リテラシー	白崎 実・後藤 敏行・額田 順二・有光 直子・岡嶋 克典	2	工・理	1	コンピューティング	※40
9003816	春	火	3	プログラミング実習A	蔵本 哲治・首藤 健一・眞銅 雅子	1	工・理	1	コンピューティング	※36,37
9003817	春	火	4	プログラミング実習B	蔵本 哲治・首藤 健一・眞銅 雅子	1	工・理	1	コンピューティング	※36,37
9003818	春	火	1	情報リテラシ	杉本 千佳	2	工・理	1	コンピューティング	※38,39
9003819	春	金	2	情報リテラシ	四方 順司	2	工・理	1	コンピューティング	※38,39

※26　理工学部「機械工学 EP」の必修科目。他 EP の学生は履修できません。
※27　工学部「生産工学科」の必修科目。他学科の学生は履修できません。
※28　工学部「生産工学科」の専門基礎科目で選択必修科目。他学科の学生は履修できません。
※29　工学部「生産工学科」の必修科目。他学科，及び，理工学部の学生は履修できません。
※30　理工学部「材料工学 EP」の必修科目。他 EP の学生は履修できません。
※31　工学部「生産工学科」のコンピューティング演習を修得した者は履修できません。
※32　理工学部「化学 EP」及び「化学応用 EP」並びに工学部「物質工学科」以外は履修できません。
※33　理工学部「バイオ EP」以外は履修できません。
※34　工学部「建設学科海洋空間のシステムデザインコース」及び理工学部「建築都市・環境系学科海洋空間のシステムデザイン EP」の必修科目。当該コース以外の学生は履修できません。
※35　理工学部「地球生態学 EP」の必修科目。「地球生態学 EP」以外の学生は履修できません。
※36　工学部「知能物理工学科」の必修科目。他の学科の学生は履修できません。
※37　理工学部「数物・電子情報系学科の物理工学 EP」の必修科目。「物理工学 EP」の学生以外は受講できません。
※38　工学部「電子情報工学科」の必修科目。他の学科の学生は履修できません。
※39　理工学部「電子情報システム EP」と「情報工学 EP」の必修科目。
※40　理工学部「数理科学 EP」の必修科目。他の学科・EP の学生は履修できません。
※41　工学部「建設学科都市基盤コース」及び理工学部「建築都市・環境系学科都市基盤教育プログラム（EP）」以外の学生については履修できません。

２．基礎演習科目

科　　目　　名	単位	学期	履修学年	対象学部	備考
基礎演習	2	春	1	教育人間科学部（学校教育課程）	
教職入門	2	春	1	教育人間科学部（学校教育課程）	
基礎演習	2	春集中	1	教育人間科学部（人間文化課程）	
基礎演習	2	春	1	経済学部	
基礎演習	2	秋	2	経営学部	※42
機械系の数学演習Ⅰ	1	春	1	理工学部機械工学・材料系学科機械工学EP	※43, 44
機械系の数学演習Ⅱ	1	秋	1	理工学部機械工学・材料系学科機械工学EP	※43, 44
機械系の力学演習Ⅰ	1	秋	1	理工学部機械工学・材料系学科機械工学EP	※43, 45
機械系の力学演習Ⅱ	1	春	2	理工学部機械工学・材料系学科機械工学EP	※43, 46
数学演習	2	春	1	理工学部機械工学・材料系学科材料工学EP	※47, 48
物理学演習	2	秋	1	理工学部機械工学・材料系学科材料工学EP	※47, 49
化学・生命基礎演習A	1	秋前半	1	理工学部化学・生命系学科	※50
化学・生命基礎演習B	1	秋後半	1	理工学部化学・生命系学科	※50
都市基盤演習	1	春	1	理工学部建築都市・環境系学科都市基盤EP	※51
土木応用数学	2	春	1	理工学部建築都市・環境系学科都市基盤EP	※51
数学・力学演習Ⅰ	1	春	2	理工学部建築都市・環境系学科海洋空間のシステムデザインEP	※52
数学・力学演習Ⅱ	1	秋	2	理工学部建築都市・環境系学科海洋空間のシステムデザインEP	※52
自然環境学野外演習	2	春	1	理工学部建築都市・環境系学科地球生態学EP	※53
数理科学基礎演習Ⅰ	2	春	1	理工学部数物・電子情報系学科数理科学EP	※54
数理科学基礎演習 II	2	秋	1	理工学部数物・電子情報系学科数理科学EP	※54
物理数学基礎演習 A	2	春	1	理工学部数物・電子情報系学科物理工学EP	※55
物理数学基礎演習 B	2	秋	1	理工学部数物・電子情報系学科物理工学EP	※55
電気数学Ⅰ	2	春	1	理工学部数物・電子情報系学科電子情報システムEP	※56
電気数学Ⅱ	2	春	1	理工学部数物・電子情報系学科電子情報システムEP	※56

※42　講義要目については２年次春学期に配布する別冊子「基礎演習・ゼミナールの手引」を参照してください。
※43　機械工学・材料系学科「機械工学 EP」に必修。他の EP の学生は履修できません。別冊子「理工学部履修案内」の機械工学 EP の項を参照してください。
※44　「生産工学科」の数学演習を修得した者は履修できません。
※45　「生産工学科」の力学演習Ⅰを修得した者は履修できません。
※46　「生産工学科」の力学演習Ⅱを修得した者は履修できません。
※47　「材料工学 EP」の必修科目。他 EP の学生は履修できません。
※48　「生産工学科」の数学演習を修得した者は履修できません。
※49　「生産工学科」の力学演習Ⅰまたは力学演習Ⅱを修得した者は履修できません。
※50　「化学・生命系学科」と「物質工学科」以外は履修できません。
※51　工学部「建築学科都市基盤コース」及び理工学部「建築都市･環境系学科都市基盤教育プログラム(EP)」以外の学生については履修できません。
※52　工学部「建設学科海洋空間のシステムデザインコース」及び理工学部「建築都市・環境系学科海洋空間のシステムデザイン EP」の必修科目。当該コース以外の学生は履修できません。
※53　「地球生態学 EP」の必修科目
※54　「数理科学 EP」の必修科目。他の学科・EP の学生は履修できません。
※55　「数物・電子情報系学科物理工学 EP」と「知能物理工学科」の必修科目。他の学科・EP の学生は履修できません。
※56　「電子情報システム EP」と「電子情報工学科」の必修科目。他の学科・EP の学生は履修できません。

３．授業科目名変更等に伴う重複履修の禁止科目について

次の表の「平成２６年度開講授業科目」欄の授業科目に対し，右に掲げる授業科目を既に履修した者は，既にその科目を履修していることから重複履修できません。

平成２６年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
地誌学概論	地誌学A＜教育人間科学部専門科目＞ (H24)
バイリンガルへのロードマップ〈基礎（人文社会系）〉	バイリンガルへのロードマップ（現代科目） (H22)
自然史科学概論	自然史科学概論A (H22) 東京湾の環境科学 (H22) 相模湾の環境科学 (H22)
基礎からの微積分Ⅰ	基礎からの微積分 (H22) 経済・経営のための微積分Ⅰ (H23) 経済・経営のための微積分Ⅱ (H23)
基礎からの微積分Ⅱ	基礎からの微積分 (H22) 経済・経営のための微積分Ⅰ (H23) 経済・経営のための微積分Ⅱ (H23)
応用地質学	地盤地質学 (H21)
図形科学	図学Ⅰ＜工学部専門基礎科目＞ (H24) 図学Ⅰ＜理工学部専門基礎科目＞ (H25)
体験物理科学Ａ，Ｂ	物質の科学Ａ (H19)
実験で学ぶ物理学Ａ	実験で学ぶ物理学 (H25)
生活と情報Ａ	生活と情報Ａ，Ｂ (H19)
学校教育最前線（現代科目）	学校教育最前線（総合科目） (H25)
人と動物の関係学	ヒューマン・アニマル・ボンド (H19)
社会の変化と自己啓発Ａ	自己啓発論Ａ (H20)
社会の変化と自己啓発Ｂ	自己啓発論Ｂ (H20)
材料学入門	ものの強さと強さの仕組み (H22)
国際理解11（文化資源のリサイクル）	文化資源のリサイクル (H22)
物理工学概論	教養としての先端物理科学 (H22) 科学における新概念形成史 (H17)
情報工学概論 電子情報システム概論	電子情報工学と社会 (H22)
コンピューティング	コンピューティング演習 (H25)
化学・生命情報処理演習 バイオ情報演習	物工情報処理演習 (H22)
機械系の数学演習Ⅰ	数学演習 (H25)
機械系の数学演習Ⅱ	数学演習 (H25)
機械系の力学演習Ⅰ	力学演習Ⅰ (H25)
機械系の力学演習Ⅱ	力学演習Ⅱ (H25)
物理学演習	力学演習Ⅰ・力学演習Ⅱ (H25)
化学・生命基礎演習Ａ	物工基礎演習Ａ (H22)
化学・生命基礎演習Ｂ	物工基礎演習Ｂ (H22)
都市基盤演習	土木工学基礎演習 (H21)
土木応用数学	土木基礎数学　＜工学部専門教育科目＞ (H23)
Aspects of Japanese Society and Culture	Aspects Japanese Society and Culture（国際交流科目） (H25)
Advertisement Art #1	Advertisement Art #1 ＜教育人間科学部専門＞（国際交流科目） (H25)

平成２６年度開講授業科目	既に履修した授業科目で重複履修できない授業科目
Transcultural UnderStanding through English	英語を使って日本語を教えよう（国際交流科目）(H25) 英語演習(英語を媒介語とした日本語の教え方) (H25) 国際理解７(英語を媒介語とした日本語の教え方)(H23)
Arabic language and its Culture	アラビア語とその文化（国際交流科目） (H25) 英語演習（アラブの言語と文化） (H25) 国際理解３（アラブの言語と文化） (H23)
ICT Literacy	ICT Literacy（国際交流科目） (H25)
Modeling with Calculus and Algebra	Modeling with Calculus ＆ Algebra （国際交流科目） (H25)
Applicable Computing	Applicable Computing（国際交流科目） (H25)
ICT Project	ICT Project（国際交流科目） (H25)
Modeling with Statistics	統計数理（国際交流科目） (H25)
Multicultural Practice	Multicultural Practice (現代科目)(国際交流科目) (H25)
Multicultural Project #1	Multicultural Project #1 ＜教育人間科学部専門＞ (H25)
Collaborative Studies #1	Collaborative Studies #1（国際交流科目） (H25)
Effective Writing in Journalism B	英語演習（Effective Writing in Journalism A） (H25) ジャーナリズム　効果的な読み書きB（国際交流科目） (H25)
Effective Writing in Journalism A	英語演習（Effective Writing in Journalism B） (H25) ジャーナリズム　効果的な読み書きA（国際交流科目） (H25)

B．外国語科目〔平成１８年度以降入学者適用〕

本学では，教養教育の中でも外国語科目は特に重要なものとして位置付けていますが，卒業に必要な履修単位数は学部ごとに異なっています。また，履修単位の数え方についても，一般の教養教育科目とは異なるところがありますので，履修の仕組みをよく理解しておくことが大切です。

本学で開講される外国語科目は英語，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語，イスパニア語，ギリシア語，ラテン語及び日本語です。

ただし，所属する学部によっては履修できない外国語科目もありますので，よく注意してください。

１．授業科目

外国語科目は次の表１，表２のとおり，授業が開講されます。どの科目にも共通している点は，次のとおりです。特に３点目に注意してください。

（１）開講される時期は，春学期又は秋学期の半期のクラスであること
（２）与えられる単位は，初級クラスに当たる外国語「実習」では１単位，中級クラスに当たる外国語「演習」では２単位であること
（ギリシア語，ラテン語については，上記の「実習」と同じく半期１単位が与えられます。）
（３）外国語「実習」では，一つの外国語ごとに必ず一定の「セット」を作ることが必要です。たとえば，ある外国語「実習」を半期１単位だけ履修しても，その単位は「卒業に必要な外国語の単位」の中には算入されません。

外国語科目の履修については所属する学部ごとに基準があり，選択する語学ごとに履修の仕方に違いがありますので，よく注意し本『教養教育履修案内』を参照の上，受講するクラスを選択してください。

【表１（英語）】

英語は全学部に向けて開講されています。一部，特定の学部にしか開講されていない科目もあります。また，ほとんどの科目で受講するクラスが指定されています。

英語「実習」でも，修得単位が一定の「セット」をなすように履修していかなければなりません。３（１）のアを参照してください。

クラス指定のない科目については，本『教養教育履修案内』を参照して自由に選択できます。

クラス指定がある科目は，クラス別の名簿を学期初めに各学部の掲示板に発表します。

クラス指定のない科目の履修についても，各学部の掲示板で確認してください。

科　目　名	開講する○　開講しない×				履修適正年次
	教育人間	経 済	経 営	工学・理工学	
英語実習　１Ｓ	○	○	○	○	１年次生から
英語実習　１Ｗ	○	○	○	○	
英語実習　１ＬＲ春学期	○	○	○	○	
英語実習　１ＬＲ秋学期※１	○	○	○	○	
英語実習　Advanced　※２参照	×	○	○	×	
英語実習　２ＳＷ	×	×	○※５	○	２年次生から
英語実習　２ＬＲ	×	×	○※５	○	
英語演習　※６,７	○	○※４	○	○※３	２年次生から

※１　英語実習１ＬＲ(秋学期)」は TOEFL 受験に焦点をおいた半期の授業です。この TOEFL 受験は例年２月の第一週に実施される全学的行事で「英語統一テスト」と呼ばれています。「英語統一テスト」は，「英語実習１ＬＲ(秋学期)」授業への取り組みが十分と評価されて「英語統一試

験の受験資格」が与えられた学生のみ受験できます。「英語統一テスト」では ITP と呼ばれる非公式の PBT(Paper-Based Test,677 点満点)を使用しています。そのスコアは公式の PBT スコア同様と考えられており，現在実施されている iBT や TOEIC との得点換算表を利用することにより，ある程度正確に自分の実力を客観的に知ることができます。そのため，今後公式の「TOEFL」や「TOEIC」に挑戦するときのステップとして役立てることができます。
また，「英語実習１ＬＲ（秋学期）」は再履修ができません。詳しくは p.42「（注）英語実習１ＬＲ（秋学期）の「統一テスト」について」を参照してください。

※２　英語実習 Advanced は経済学部・経営学部の入学時に指定された学生が履修します。
経済学部の平成１８年度以降の入学者で，入学時に TOEFL(CBT)２１３点，(PBT)５５０点以上（iBT）７９点以上，または他のテストでそれに相当するスコアを持っている学生は，１年次に英語実習 Advanced を履修します。クラス定員等の事情で基準点が変動する場合がありますので，事前に経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に照会してください。
経営学部の平成１８年度以降の入学者（帰国生徒等）で，入学時に TOEFL(CBT)２１３点，(PBT)５５０点以上，（iBT）７９点以上，またはそれに相当するスコアを有するものは，１年次に英語実習１（４単位）に代わり，経済学部開講の英語実習 Advanced（４単位）を履修することができます。

※３　工学部・理工学部の学生は英語実習の必修単位数以外の単位として，２年次から教育人間科学部，工学部・理工学部及び全学部を対象とした英語演習を履修することができます。p.44 を参照してください。

※４　経済学部の英語演習履修の詳細については p.43 を参照してください。（他学部等が開講する科目の読替え，Advanced クラスの履修，８単位を超えて英語を履修する場合等には特に注意してください。）

※５　経営学部の学生で１年次に英語実習 Advanced（４単位）を修得した者は，２年次以降において同科目（２単位）を履修することで，英語実習２LR（１単位）及び英語実習２SW（１単位）と読み替えることができます。

※６　全学部対象に「英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習」及び「TOEFL iBT スピーキング対策演習」の２つの夏季集中英語演習があります。この詳細については，p.42 を参照してください。

※７　国際戦略推進機構で全学部対象に開講する「Effective Writing in Journalism A」，「Effective Writing in Journalism B」，「Academic Presentation Skills A」及び「Academic Presentation Skills B」は，英語で授業を行います。この詳細については，p.42 を参照してください。

なお，英語科目の再履修をする場合，相談窓口が科目により異なります。

科目名	相談窓口
英語実習 Advanced 以外の英語実習	英語教育部
英語実習 Advanced	所属学部の学務係
英語演習（夏季集中は除く）	所属学部の学務・教務係
英語演習（夏季集中）	英語教育部

英語科目以外の外国語については，イスパニア語は社会科学系事務部経済学務係へ，それ以外の外国語は教育人間科学部学務第一係に相談してください。

【表２（英語以外の外国語）】

初修外国語の「実習」でも，修得単位が一定の「セット」をなすように履修していかなければなりません。次項２の「履修の方法」を参照してください。

科　目　名	履修可能:○, 不可能:×				備考
	教育人間	経済	経営	工学・理工学	
ドイツ語実習１ ドイツ語実習２ ドイツ語実習１（会話） ドイツ語実習２（会話） ドイツ語演習	○				１年次生から実習１→実習２→演習の順序で履修します。
フランス語実習１ フランス語実習２ フランス語実習１（会話） フランス語実習２（会話） フランス語演習	○				
中国語実習１ 中国語実習２ 中国語演習	○※１				
ロシア語実習１ ロシア語実習２ ロシア語演習	○				
朝鮮語実習１ 朝鮮語実習２ 朝鮮語演習	○				
イスパニア語実習１ イスパニア語実習２ イスパニア語演習	○※２ ○※２ ○※２	○ ○ ○	○ ○ ○	○※２ ○※２ ○※２	
ギリシア語	○※３				２年次以上
ラテン語	○※３				２年次以上
日本語中級 日本語上級 日本語演習	○（留学生のみ） ○（留学生のみ） ○（留学生のみ）				プレースメントテストの結果で受講科目が指定されます。

※１　中国語科目に関しては，全学の履修登録に先立ち，予備履修登録システムを独自に実施しています。中国語履修希望者に対し，クラス指定と必要に応じて受講制限を行います。詳細は４月初旬と 10 月初旬に各学部で掲示しますので，中国語履修希望者は必ず期間内に中国語の予備履修登録システムから登録を行ってください。再履修者も予備履修登録が必要です。調整結果に従い，全学の履修登録を行ってください。

※２　履修制限があるので，登録の仕方については，所属学部の掲示に従ってください。

※３　経済学部では「卒業に必要な外国語の単位」数には算入されません。
経営学部については，ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は，外国語科目には算入せず，卒業資格に関わる教養教育科目として算入します。

２．履修の方法１（各外国語共通の規定）

（１）「卒業に必要な外国語の単位」数について

「卒業するために外国語科目を何単位修得すればよいのか」

卒業するために修得するべき外国語科目の単位数は，所属する学部によって異なります。また，入学年度によっても異なる場合があります。こうしたルールは，入学時に配布された『教養教育履修案内』（平成 26 年度入学者の場合は本冊子の p.7）及び所属する学部の「履修案内」等に「教養教育　履修基準」という項目で記載されていますので，これに従ってください*。

＊ただし，この「教養教育　履修基準」の項目で「外国語科目の単位数」として規定されている数は，「卒業するために最低限必要な外国語の単位数」です。これを超えて外国語を履修した場合でも，「卒業するために必要な教養教育の単位数」としては算入されることがあります。

（２）履修の順序について

外国語科目は，原則として，実習１→実習２→演習の順に履修します*。

＊ただし，入学時の習熟度によって別の履修順序が適用される学部もあります。また，「スピード履修」「スキップ履修」という制度もありますので，それぞれの外国語科目の項目を参照してください。

（３）外国語「実習」における「セット」について

外国語科目を履修して「卒業に必要な外国語の単位」数に参入するためには，適切な科目を適切な組み合わせ（＝セット）で履修していくことが必要です。

「卒業に必要な外国語の単位」として認められるためには最少でも初級クラスに当たる外国語「実習１＋実習２」の２単位を揃えるようにしてください。

ただし，「実習」クラスには，外国語によっては各種のタイプを区別していることがあります（「実習１a」「実習２b」など）。必ず，該当する外国語の説明をよく読んで，これらを適切に組み合わせて受講し，修得単位が有効な「セット」をつくるように履修を進めてください。

また，中級クラスにあたる外国語「演習」に進む場合は，「実習１＋実習２を２セット４単位」を揃えるようにしてください。定められた「セット」を揃えないと，修得した単位が「卒業に必要な外国語の単位」として算入されない場合があります。この「セット」の作り方は，英語と初修外国語とでは違いがあります。該当箇所をよく読み，理解した上で履修を進めてください。

（４）履修可能な外国語の数について

上の（１）の「必要な単位数」と同じように，たとえ何ヵ国語を履修しても，学部によって「卒業に必要な外国語の単位」に算入できる外国語の数が限られていることがあります。この点については，入学時に配布された『教養教育履修案内』（平成 26 年度入学者の場合は本冊子の P.7）や所属する学部の「履修案内」等に掲載されている「教養教育　履修基準」という項目をよく読み，学部の規定に従ってください。

＊教育人間科学部は「１外国語以上」の数の外国語を学ぶことを求めています。
＊経済学部では「外国語科目」は「２ヵ国語」を履修するように求めています。
＊経営学部では「英語」と「英語以外の外国語」を区別しており，「英語以外の外国語」は「１又は２ヵ国語」を履修するように求めています。
＊工学部では「英語」と「英語以外の外国語」を区別しており，特に「英語以外の外国語の数」を定めていません。
＊工学部･理工学部では学科により履修の基準が異なります。それぞれが所属する学科の履修基準をよく読んでください。

（５）規定の「卒業に必要な外国語の単位」を超えて履修した単位について

定められた数の外国語を「卒業に必要な外国語の単位数」履修した上で，さらにその外国語を，あるいは新しい外国語を学んでも，無駄になるのでしょうか。所属学部によって異なりますが，規定よりも多く修得した外国語科目の単位を「卒業するために必要な教養教育の単位」の中に算入できる場合があ

ります。入学時に配布された『教養教育履修案内』（平成 26 年度入学者の場合は本冊子の P. 7）や所属する学部の「履修案内」等に掲載されている「教養教育　履修基準」という項目をよく読み，学部の規定に従ってください。

（６）外国語の履修を開始する学年について

外国語は，どの学年からでも履修を開始できます（ギリシア語，ラテン語は２年次以上）。

ただし，英語の履修については必ずしもその通りではありません。各外国語の履修については次の項目に従ってください。

３．履修の方法２（各外国語別の規定）

英語の履修相談については，p.44を参照してください。

（１）【英語】

英語は英語実習（半期１単位）と英語演習（半期２単位）の２種類に分かれています。英語実習は一般的な英語の運用能力を向上させるための科目で，授業時間内での実践的な訓練が中心になります。一方，英語演習は専門領域の研究や卒業後のキャリアのために必要な英語の運用能力を向上させるための科目で，授業時間内での演習に加えて，授業時間外に学習する課題も英語実習より多く与えられます。

英語実習及び一部の英語演習のクラス分けについては，各学期初回授業開始日までに掲示します

ア　英語実習１

英語についても，この「実習１」では，修得単位が一定の「セット」をなすように履修していかなければなりません。英語実習１では，ＬＲ（Listening and Reading）を春学期・秋学期各１単位，Ｓ（Speaking）とＷ（Writing）を春学期または秋学期に各１単位履修します。以上の４種類４単位が全部そろって一つの「セット」ができ，「英語実習１の履修」が完成したことになります。また，英語実習１を４単位を超えて履修することはできません。１年次においてＬＲ（春学期）に合格しなかった場合でも，ＬＲ（秋学期）はそのまま同じクラスで履修できます。

【英語実習１の履修の完成】

ＬＲ（春学期）	＋	ＬＲ（秋学期）	＋	Ｓ（春学期 or 秋学期）	＋	Ｗ（春学期 or 秋学期）

（注）英語実習１の再履修について

英語実習１を未履修の者または再履修する者は，次の表に従って自学部用に開講された英語実習１または再履修者用の特別クラスを履修します。やむを得ない場合には，他学部用のクラスの履修が許可されることがあります。ただし，この場合履修相談が必要です。

不合格または未履修の科目	→	再履修すべき科目
英語実習１Ｓ	→	英語実習１Ｓ
英語実習１Ｗ	→	英語実習１Ｗ
英語実習１ＬＲ（春学期・秋学期）	→	再履修用英語実習１ＬＲ（春学期） または指定された英語実習１ＬＲ（春学期）

原則として英語実習１ＬＲ（秋学期）を受講できるのは１年次のみで，２年次以後は英語実習１ＬＲ（春学期）で再履修をします。１Ｓ，１Ｗに関しては，１年次に春学期の単位が取得できなかった場合は年度内の秋学期に再履修は行えません。次年度に再履修することとなります。

英語実習１の再履修をする者は，必ず英語教育部から出される指示に従ってください。指示の内容は各学部の掲示板に，学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することは登録システム上できませんので注意してください。

（注）英語実習1LR（秋学期）の「英語統一テスト」（以下「統一テスト」）について

英語実習１ＬＲ（秋学期）は，全学部の１年次生を対象にした Listening と Reading の教育プログラムです。成績は「統一テスト」を受験して，その成績に基づいて評価します。平成２６年度は平成２７年２月３日（火）に統一テストを実施します。統一テストについての詳細やその受験資格については，授業のときに説明します。なお，統一テストの受験資格が与えられなかったときは，成績は不合格となり，自動的に翌年以降の英語実習１ＬＲ（春学期）のみを再履修することになります。

英語実習 Advanced に在籍し，英語実習１ＬＲ（秋学期）を受講していない１年次生も，希望すれば「統一テスト」を受験することができます。

イ　英語実習２

英語実習２は経営学部，工学部及び理工学部の２年次生以上が履修します。英語実習２では，ＳＷ（スピーキング，ライティング）とＬＲ（リスニング，リーディング）を春学期あるいは秋学期に各１単位履修します。以上の２種類２単位が全部そろって一つの「セット」ができ，「英語実習２の履修」が完成したことになります。

【英語実習２の履修の完成】

SW（春学期 or 秋学期）	＋	LR（春学期 or 秋学期）

（注）英語実習２の再履修について

経営学部と理工学部のみが英語実習２を開講しています。英語実習２を未履修の者または再履修する者は，原則として自分の所属する学部用の英語実習２のクラスで履修します。

ただし，英語実習２の再履修をする者は，必ず英語教育部から出される指示に従ってください。指示の内容は各学部の掲示板に，学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することは登録システム上できませんので注意してください。

なお，経営学部の学生で１年次に英語実習 Advanced（４単位）を修得した者は，２年次以降において同科目（２単位）を履修することで，英語実習２LR（１単位）及び英語実習２SW（１単位）と読み替えることができます。

ウ　英語演習

①全学部対象の英語演習

全学の２年次以降の学生を対象に，以下の講座を開講します。

- 英語アカデミックプレゼンテーションスキル演習　（夏季集中）
- TOEFL iBT スピーキング対策演習（夏季集中）
- Effective Writing in Journalism A
- Effective Writing in Journalism B
- Academic Presentation Skills A
- Academic Presentation Skills B

教育人間科学部	教育人間科学部開講の英語演習として読み替えます。
経済学部	経済学部開講の英語演習ＡＤＷ，英語演習ＡＲＬ，英語演習ＥＸＴのいずれかとして読み替えます。必ず事前に，経済学務係に相談し指示を受けてください。指示に従わず勝手に履修登録をすることはできませんので注意してください。
経営学部	経営学部開講の英語演習として読み替えます。
工学部・理工学部	英語実習の必修単位数以外の単位として読み替えます。

夏季集中講義で行われる講義でも，４月の履修登録期間中に登録を済ませる必要があります。また，登録前に英語力を示す資料と簡単な審査があります。学期開始直後に，履修に関する指示が各学部の掲示板に掲示されますので，必ずそれに従ってください。

②教育人間科学部

教育人間科学部の英語演習では，２年次生以降を対象に，英語をツールとした実践及び専門基礎への橋渡しを目指します。教育人間科学部の学生は２年次以降に希望する演習，または全学部対象の英語演習を受講します。

平成２５年度まで選抜クラスに所属する１年次生向けに開講されていた，英語演習（ＬＲ／ＳＷ）は，平成２６年度より開講開講されなくなりました。平成２５年度までの入学者で，

選抜クラスに所属し，英語演習（ＬＲ／ＳＷ）を不可になった場合，英語演習（２年次生以降対象）を履修し不足する単位を充足してください。

③経済学部

１年次に英語実習（または英語実習 Advanced）を履修した学生は，２年次以降に英語演習を履修できます。

１年次に英語実習を履修した学生は，英語演習ＡＤＷ(Academic Discussion and Writing)及び英語演習ＡＲＬ(Academic Reading and Listening) を履修します(合計４単位）。各技能でクラス分けを行います。クラスの発表は４月上旬に経済学部掲示板にて行います。ただし，１年次英語統一テストの結果により指定された学生は英語演習 Advancedβを受講します（合計４単位）。

１年次に英語実習 Advanced を履修した学生は英語演習 Advancedαを受講します（合計４単位）。

英語科目を実習(４科目４単位）及び演習(２科目４単位）の合計８単位を超えて上限の１２単位まで履修する場合には英語演習ＥＸＴ(プラクティカルな実力向上ではなく，英語や英語圏の文化に関する教養・理解を深めるためのクラス）を３年次以降に（２科目４単位をセットとして）履修します。

英語演習ＥＸＴは，英語実習及び英語演習の合計８単位を修得した場合(Advanced クラス受講者は Advanced クラスを含めた実習及び演習の８単位を修得した場合)にのみ卒業に必要な単位となりますので注意してください。

全学部対象の英語演習は，英語演習ＡＤＷ，英語演習ＡＲＬ，英語演習ＥＸＴのいずれかとして読み替えます。

経済学部が許可する学生に限り,英語演習 Advanced クラスを３年次以降に履修して英語科目を合計１２単位まで修得することもできます。希望者は，事前に経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に照会してください。

英語演習の適正履修開始年次について

	１　年	２　年	３　年	４　年
英語演習ＡＤＷ／ＡＲＬ		○		
英語演習Advancedα		▲※１	▲※３	
英語演習Advancedβ		▲※２	▲※４	
英語演習ＥＸＴ			▲※５	

○：Advanced クラス履修の学生を除く

▲※１：入学時に Advanced クラスに指定された学生が２年次以降に履修できます。

▲※２：１年次の英語統一テスト成績によって指定された学生が２年次以降に履修できます。

▲※３・４：経済学部の許可を得た学生が英語を８単位を超えて履修する場合に履修できます。（３年次以降に初めて Advanced クラスを履修する場合，事前に経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に照会してください。）

▲※５：英語を８単位を超えて履修する場合に３年次時以降に履修できます。（クラス指定はありません。２科目４単位をセットとして履修します。）

英語演習ＡＲＬ （Academic Reading and Listening）

英語演習ＡＲＬはアカデミック・イングリッシュとしての英語に対応する能力を養成する科目です。リーディングを中心としながら，リスニングも含めて専門レベルの英語を受信するためのトレーニングを統合的に行う授業となります。また，通常の授業のための予習復習に加えて，コンピュータ利用による英語自習システムでの学習も課されます。通常の授業形態については個々の担当教員によるシラバスをご覧ください。英語自習システムの利用方法については，経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係から掲示等により指示されます。

英語演習ＡＤＷ （Academic Discussion and Writing）

The Academic Discussion and Writing seminar is taught by native speaker teachers focusing on an academic subject in their area of specialization. In this course, students will: (1) improve their spoken fluency through authentic interaction (2) practice summary and essay-writing skills (3) increase their intercultural awareness through exploration of the course theme. Each week short articles will be assigned for reading homework. In class, the teacher will guidestudents through a series of exercises to help them understand both the language forms used in, and the cultural content of, the article. Students are expected to do the homework, ask questions, and participate fully in class activities. More details will be given by the teacher in the published syllabus.

※１　経済学部の英語演習科目（ＡＲＬ・ＡＤＷ・ＥＸＴ）の代わりとして，全学部対象の英語演習を履修することが認められる場合があります。

※２　英語演習ＥＸＴの代わりとして，教育人間科学部開講の英語演習科目を履修することが認められる場合があります。希望者は，経済学部から出される指示に従って事前に経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係で手続きを行ってください。指示の内容は経済学部掲示板に学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することはできませんので注意してください。

④経営学部

ＣＡＬＬシステムを活用したＴＯＥＩＣ対策プログラムです。春学期または秋学期に２単位履修します。加えて授業時間外に，経営学部ＰＣ教室で自習課題（アルク・ネットアカデミー）を履修します。

受講クラスは選択制です。

履修者（再履修者を含む）は，必ず経営学部担当の社会科学系事務部経営学務係から出される指示に従ってください。指示の内容は掲示板に学期初めまでに掲示します。また，学期の開講に先立って受講希望申請を受け付ける場合があります。指示に従わないで勝手に履修登録することはできませんので注意してください。

⑤工学部

工学部及び教育人間科学部，または全学部を対象として開講される英語演習（２年次生以降対象用）を履修することができ，修得した単位は英語実習の必修単位数以外の単位として取り扱われます。

⑥理工学部

理工学部及び教育人間科学部，または全学部を対象として開講される英語演習（２年次生以降対象用）を履修することができ，修得した単位は英語実習の必修単位数以外の単位として取り扱われます。

・英語臨時履修相談室について
英語教育部では，学期当初の授業開始日から履修登録最終日まで春学期は４月４日から１７日に，秋学期は１０月１日から１４日に，履修相談及びその他必要な受付を行います。（最終日は１７：００まで。）場所等については，各学部の掲示板に学期初めに掲示します。

（２）【ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語】

英語以外の外国語のうち，中国語，ドイツ語，ロシア語では，「実習１」「実習２」にそれぞれ「a」，「b」の記号を付けて内容を区別しています。それぞれの外国語の説明をよく読み，履修の仕方を間違えないように注意してください。

ア　履修方法

①最低限必要な単位数について

初修外国語でも，初級クラスに当たる「実習」クラスには「実習１」と「実習２」があります。これを組み合わせて受講し，２単位の「セット」を揃えるように履修を進めてください。
「セット」を揃えることができないと，修得した単位が「卒業に必要な外国語の単位」としては算入されないことがあります。

○実習

＊「セット」について

同一の外国語について，実習１＋実習２の「１セット２単位」で履修してください。

＊「卒業に必要な外国語の単位」

「卒業に必要な外国語の単位」に算入するためには，最小でもこの「１セット２単位」になっていることが必要です。

＊「実習」は，「１」と「２」の二つを合わせて１年間で完結するような授業内容ですので，原則として，春学期・秋学期を通じて，同じ曜日・時限の同じ教員の授業を履修してください。

＊中級レベルの「演習」に進むために必要な単位

ただし，中級レベルの「演習」に進もうとする場合は，その外国語の「実習１」，「実習２」を「２セット４単位」揃えるようにしてください（「スキップ履修」「スピード履修」を認められた者を除く）。

＊「実習」を履修できる限度

「実習」は初級レベルのクラスですから，最大でも上記の実習１＋実習２の「セット」を２セット，合計４単位までしか「卒業に必要な外国語の単位」に算入することができません。

＊「実習（会話）」について

いくつかの外国語については「実習（会話）」というクラスが設けられていることがあります。「実習（会話）」の「１」「２」は，同じ外国語の実習１＋実習２に代替することができます。しかし，既に通常の実習１＋実習２を「２セット４単位」履修したうえで，「会話１」「会話２」の「１セット２単位」を付け加えても，上記のように「初級レベルは４単位まで」という規定がありますので，「卒業に必要な外国語の単位」には組み入れることができません。ただし，この場合「卒業に必要な教養教育の単位」に算入できる場合があります。

○演習

「演習」は中級のレベルに当たります。所属学部の「履修基準」によって必要な単位数は異なります。その「卒業に必要な外国語科目の単位数」を超えて履修した場合でも，原則的には教養教育科目の履修基準に準拠して，「卒業に必要な教養教育科目の単位」に算入できる場合があります。

②履修の順序

実習１→実習２→演習の順で履修します。「実習１」の単位を修得しないと「実習２」に進めません。さらに，中級レベルの「演習」に進もうとする場合は，その外国語の「実習１」，「実習２」を必ず「２セット４単位」揃えることが必要です。（「スキップ履修」「スピード履修」を認められた者を除く）

③スキップ履修

入学以前に学習した経験があるなど，一定の条件を満たしている場合，初級レベルの「実習」を履修せずに（「スキップ」して），中級レベルの「演習」から履修することができます。これを「スキップ履修」といい，希望する人は所定の手続きに従って申請し許可を得てください。この「スキップ履修」をした場合でも，「卒業に必要な外国語の単位数」は変わりません。必要な数だけ「演習」を履修することになります。

④スピード履修

「２年次生になって新しい外国語に挑戦し中級レベルまで学びたいが，必修科目も多くなり外国語実習のために４コマも時間割を空けられない」「学びたい外国語は開講されるクラス数が少ない」

こうした事情から，場合によっては１年間以上の時間をかけないと，中級レベルの「演習」に進むために必要な実習１＋実習２の「２セット４単位」を揃えることができない場合があります。

「スピード履修」とは，日本語及びイスパニア語を除く初修外国語において，通常とは異なり「実習１＋実習２１セット２単位」を揃えれば，その外国語の「演習」に進むことができるようにする方式をいいます。希望する人は，所定の手続きに従って申請し，許可を得ることが必要です。この「スピード履修」をした場合でも，「卒業に必要な外国語の単位数」は変わりません。必要な数だけ「演習」を履修することになります。

⑤クラス指定，履修制限

原則としてクラス指定はありません（中国語を除く）。

ただし，クラスの規模を適正化するために履修制限や人数調整をすることがありますので，第１回目の授業には必ず出席してください。

また，「実習１」，「実習２」を同一教員で履修するように指定されている語学もあるのでこの『教養教育履修案内』の該当箇所で確認してください。

特に「実習（会話）」の授業では，原則として履修者数の制限を行います。

⑥再履修

a　「実習１」の単位を修得できなかった場合，同一年度の「実習２」を履修することはできません。次年度以降に「実習１」を再履修してから，「実習２」を履修することになります。

b　中級レベルの「演習」に進もうとする場合は，その外国語の「実習１」，「実習２」を必ず「２セット４単位」揃えることが必要です（「スピード履修」を認められた者を除く）ので，これが満たされない場合は，次年度以降に「実習」を再履修してから，「演習」を履修することになります。

イ　その他の注意事項

①ドイツ語

a　ドイツ語実習について

ドイツ語実習は，時間割表の上で，「ドイツ語実習１ａ」，「ドイツ語実習１ｂ」，「ドイツ語実習２ａ」，「ドイツ語実習２ｂ」と区別されています。「ａ」では文法に，「ｂ」では講読・練習に重点をおいて授業が行われます。

実習の[１ａ]＋[２ａ]，[１ｂ]＋[２ｂ]をすべて受講すると文法と講読・練習の基本を学ぶことができます。

さらに「演習」に進もうとする場合は，実習を「２セット４単位」履修することが必要ですが，このように[１ａ]＋[２ａ]，[１ｂ]＋[２ｂ]の組み合わせで揃えることを推奨します。それ以外の人は，「１セット２単位」を[１ａ]＋[２ａ]の組み合わせで揃えることを推奨します。

ただし，履修登録や成績の記録上では，こうした「ａ」，「ｂ」の区別は表示されません。また，再履修の場合もこの「ａ」，「ｂ」の区別はありません。

b　ドイツ語実習（会話）について

「実習」は，「１」と「２」の二つを合わせて１年間で完結するような授業内容ですので，原則として，春学期・秋学期を通じて同じ曜日・時限の同じ教員の授業を履修してください。「ドイツ語実習１（会話）」，「実習２（会話）」は，「実習１」，「実習２」に代替することができます。

＊会話の力をつけるためには「実習１（会話）」と「実習２（会話）」を「１セット」として履修することが望ましいのですが，実際上「実習（会話）」クラスは「１」「２」ともに限られた数しか開講されていません。「実習１（会話）」は単位をもらえたのに，「実習２（会話）」は受講したくても時間が空けられず受講することができない等の場合には，他の（会話ではない）「実習２」のクラスを履修して，「１セット２単位」を揃えてください。
＊また，「実習１」，「実習２」を「２セット４単位」揃えたうえで，この「実習１（会話）」，「実習２（会話）」を履修した場合は，「卒業に必要な外国語の単位」には数え入れることができません（初級レベルの「実習」は４単位まで，という規定があるため）。ただし，「卒業に必要な教養教育の単位」に算入できる場合があります。

c　演習について

「演習」はクラスによって授業内容，習熟度等が異なります。授業内容をよく読み，内容とレベルが合ったクラスを履修してください。半期２単位で春・秋学期は内容的に別のクラスになります。春学期または秋学期だけでも履修でき，「演習」を複数履修しようとする場合，春学期・秋学期のクラスを同一時間帯にする必要はありません。履修学年や学期が異なれば同一教員の「演習」を何度受講してもかまいませんが，同一教員の「演習」を同一学期に重複して選択することはできません。

②フランス語

a　クラスについて

実習１及び２は，同一教員が担当するクラスを履修することが望ましいです。

b　フランス語実習（会話）について

「フランス語実習１（会話）」，「実習２（会話）」は，「実習１」，「実習２」に代替することができます。

＊会話の力をつけるためには「実習１（会話）」と「実習２（会話）」を「１セット」として履修することが望ましいのですが，実際上「実習（会話）」クラスは「１」「２」ともに限られた数しか開講されていません。「実習１（会話）」は単位をもらえたのに，「実習２（会話）」は受講したくても時間が空けられず受講することができない等の場合には，他の（会話ではない）「実習２」のクラスを履修して，「１セット２単位」を作ってください。
＊また，「実習１」，「実習２」を「２セット４単位」履修したうえで，この「実習１（会話）」，「実習２（会話）」を履修した場合は，「卒業に必要な外国語の単位」には数え入れることができません（初級レベルの「実習」は４単位まで，という規定があるため）。ただし，「卒業に必要な教養教育の単位」に算入できる場合があります。

c　演習について

「演習」はクラスによって授業内容，習熟度等が異なります。授業内容をよく読み，内容とレベルが合ったクラスを履修してください。半期２単位で春・秋学期は内容的に別のクラスになります。春学期または秋学期だけでも履修でき，「演習」を複数履修しようとする場合，春学期・秋学期のクラスを同一時間帯にする必要はありません。履修学年や学期が異なれば同一教員の「演習」を何度受講してもかまいませんが，同一教員の「演習」を同一学期に重複して選択することはできません。

③中国語

a　中国語実習について

「実習」には，ａ群（文法に重点を置いた授業）とｂ群（発音や会話に重点を置いた授業）の２つがあります。実習１ａ＋実習２ａ，または実習１ｂ＋実習２ｂのそれぞれ「１セット２単位」で揃えなければ外国語の単位にはなりません。また，「実習１」と「実習２」は，春・秋学期で，同一の教員の同じ曜日・時限の授業を選択してください。やむを得ない場合のみ，同一教員であれば秋学期に曜日あるいは時限の変更は認めます。その場合，秋学期の予備履修登録が必要です。曜日と時限のうちひとつでも変更をする場合は秋学期の予備履修登録が必要です。10 月初旬の掲示を確認し，中国語予備履修登録を行ってください。

b　中国語演習について

「演習」はクラスによって授業内容やレベル等が異なります。シラバスをよく読み，内容とレベルが自分に合ったクラスを履修してください。内容が異なれば，同一学期あるいは別の年度に「演習」を複数履修することもできます。ただし，教員が異なっても，同内容の演習は重複履修することはできません（単位未取得者はこの限りではありません）。

④ロシア語

a　ロシア語実習について

実習は時間割表でａ（文法中心）とｂ（会話中心）のクラスに分かれています。また，1 は春学期，2 は秋学期を表し，同一時間帯で連続した内容になりますので，一年間を通じて同一時間帯で履修することが前提となります。

実習の１ａ＋２ａ，１ｂ＋２ｂをすべて受講すると基本文法と基本会話を学ぶことができます。さらに演習に進もうとする場合は，実習を「２セット４単位」履修することが必要ですが，このように１ａ＋２ａ，１ｂ＋２ｂの組み合わせで揃えることを推奨します。ただし，履修登録や成績の記録上では，こうした「ａ」，「ｂ」の区別は表示されません。また，再履修の場合もこの「ａ」，「ｂ」の区別はありません。

b　ロシア語演習について

演習は半期 2 単位で春・秋学期は別のクラスになります。演習を複数履修したい場合も春学期と秋学期が同一時間帯である必要はありません。

⑤朝鮮語

「実習１」，「実習２」の二つを合わせて１年間で完結するような授業内容ですので，春学期・秋学期同じ曜日・時限の授業を履修してください。

「演習」は「朝鮮語実習１」，「実習２」を「２セット４単位」修得した人，またはスピード履修やスキップを認められた人が履修できます。「演習」は春学期または秋学期でそれぞれ完結する授業です。同じ学期内でも異なる担当教員で複数履修することができます。また，同一教員で春学期と秋学期を履修することもできますし，同一教員でも同一の学期でなければ繰り返し受講することができます。

（３）【イスパニア語】

イスパニア語は，イスパニア語実習（半期１単位）とイスパニア語演習（半期２単位）の２種類に分かれています。イスパニア語実習は一般的なイスパニア語の運用能力を身につけるための基礎科目で，授業時間外学習を必要としながらも授業時間内に大部分の学習を行います。一方，イスパニア語演習は，専門領域の研究や卒業後のキャリアのために必要なイスパニア語の運用能力を向上させるための科目で，授業時間内での演習に加えて，授業外での学習する課題もイスパニア語実習より多く与えられます。

ア．イスパニア語実習１・２

イスパニア語実習１・２の授業は，２科目ずつセットを組んでいます。すなわち曜日と時限が同じである授業の春学期分・秋学期分が，１セットです。平成２６年度は，以下の計２セットが設定されています。各セットとも春学期１単位・秋学期１単位，計２単位となります（曜日・時限については必ず平成２６年度の授業時間割表で確認してください）：

①「イスパニア語実習１Ａ（春学期）」
　「イスパニア語実習２Ａ（秋学期）」
②「イスパニア語実習１Ｂ（春学期）」
　「イスパニア語実習２Ｂ（秋学期）」

履修方法

① 経済学部は必ず２セット（計４単位）を，その他の学部は１～２セット（計２～４単位）を選択して履修してください。ただし，イスパニア語演習まで履修予定の者は必ず２セット（計４単位）を履修してください。
② 経済学部以外の学部生であるなどの事情で１セット（計２単位）のみを履修する場合，春学期科目のみ（例えば，「イスパニア語実習１Ａ」と「イスパニア語実習１Ｂ」），あるいは秋学期科目のみ（例えば，「イスパニア語実習２Ａ」と「イスパニア語実習２Ｂ」）を組み合わせて合計２単位として履修することはできません。通年のセットの組み合わせで履修して，２単位としてください。
③ 各セット内の授業２科目は，手続き上は別科目扱いですから，それぞれを別々に履修登録する必要があります。登録漏れのないよう充分に注意してください。
④ 履修制限があるので，登録の仕方については，所属学部の掲示に注意してください。

イ．イスパニア語演習

イスパニア語演習は，平成１８年度以降入学生であり，かつイスパニア語実習１・２を２セット履修済みの学生のみが履修できる科目です。イスパニア語演習を４単位履修する場合，曜日と時限が同じ科目を春学期と秋学期に１科目ずつ履修してください。２単位のみ履修する場合は，原則として春学期に開講している科目を履修してください。イスパニア語演習の授業は，以下のとおりとなります。

「イスパニア語演習Ａ（春学期)」
「イスパニア語演習Ａ（秋学期)」
「イスパニア語演習Ｂ（春学期)」
「イスパニア語演習Ｂ（秋学期)」

履修方法

上記より，計４単位以上を選択して履修してください。所属学科によって必要な単位数が異なるので，詳細は入学時に配布された『教養教育科目履修案内』を参照してください。不明な場合には必ず所属学部の学務担当係に問い合わせてください。

（４）【ギリシア語，ラテン語】

ギリシア語，ラテン語については２年次以降に履修することができます。
どの学部の学生でも履修することはできますが，その扱いは学部ごとに異なっていますので注意が必要です。
経済学部では「卒業に必要な外国語の単位」数には算入されません。
経営学部については，ギリシア語・ラテン語の単位を修得した場合は，外国語科目には算入せず，卒業資格に関わる教養教育科目として算入します。

（５）【日本語】

「Ｅ．外国人留学生のための授業科目」（p.63）を参照してください。

C．外国語科目〔平成１７年度以前入学者適用〕

１．授業科目

外国語科目は以下に示す表のとおり授業が開講されています。いずれも春学期又は秋学期の半期１単位のクラスで，半期ごとの成績評価です。外国語科目の履修については各学部の基準及び各語学で定められた方法に注意しながら，選択してください。

（１）【英語】

平成１７年度以前入学者は以下の英語科目を履修します。

科　目　名	履修可能：○，不可能：×				履修適正年次（備考）
	教育人間	経済	経営	工学	
ＩＳ (スピーキング)	○	○	○	○	１年次生から ※１
ＩＷ (ライティング)	○	○	○	○	
ＩＲＬ (ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ・ﾘｽﾆﾝｸﾞ) 前期	○	○	○	○	
ＩＲＬ（ﾘｰﾃﾞｨﾝｸﾞ・ﾘｽﾆﾝｸﾞ) 後期	○	○	○	○	
ⅡＳ（スピーキング）	○	○	○	○	２年次生から ※２ ※１８年度以降新設の英語演習は１７年度以前の入学者の卒業単位とはならないので留意のこと。
ⅡＷ（ライティング）	○	○	○	○	
ⅡＲ（リーディング）	○	○	○	○	
ⅡＬ（リスニング）	○	○	○	○	
Ⅲ	※５		○	※５	
Ⅲ（Advanced　α）		○			※３
Ⅲ（Advanced　β）		※６			※４

※１　英語Ⅰ（ＩＳ，ＩＷ，ＩＲＬ前期）を再履修する場合は，それぞれ対応する英語実習（１Ｓ，１Ｗ，１ＬＲ春学期）を履修します。英語ＩＲＬ後期を再履修する場合は，英語実習１ＬＲ春学期または英語実習１ＬＲ再履修用クラスを履修します。p.41 の３（１）ア，p.53 の３（１）アを参照してください。

※２　英語Ⅱの再履修については，p.53 の　３　(1)イを参照してください。

※３　１年次から英語Ⅲ(Advanced）の履修を認められた学生が履修します。

※４　平成１７年度以前入学者で英語統一テスト成績上位者として英語Ⅲ(Advanced）の履修を認められた学生が２年次以降に履修します。英語Ⅲ(Advanced α)を履修できるかなど質問等がある場合は経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に照会してください。

※５　英語Ⅲについては，本年度は開講いたしません。

※６　英語Ⅲ(Advanced β)については，本年度は開講いたしません。

（２）【英語以外の外国語】

平成１８年度入学者から，履修方法，履修基準が変化しましたので注意してください。

初修外国語の初級レベル（１と２，または会話１と会話２）の科目名が平成１８年度からは実習１，実習２となりました。平成１７年度以前入学者で各初修外国語の初級レベルを履修するものは，それぞれの初修外国語の実習１，実習２，実習１（会話），実習２（会話）を履修してください。

どの外国語もクラス指定はありませんので，講義要目を参照のうえ，自由に選択できます。ただし，中国語実習については，同一時間帯に同一科目名で複数の授業が開講されている場合には，受講すべき学部を指定していますので，その指示に従ってください。

科目名		旧科目名	レベル	履修可能：○　不可能：×				備考
				教育人間	経済	経営	工学	
ドイツ語	1	Ⅰ（前期）	初級	○	○	○	○	１・２ ↓ ３ ↓ ４ の順序で 履修する。
	2	Ⅰ（後期）	〃	○	○	○	○	
	3	Ⅱ	中級	○	○	○	○	
	4	Ⅲ	上級	○	○	○	○	
	会話１	会話Ⅰ（前期）	初級	○	○	○	○	
	会話２	会話Ⅰ（後期）	〃	○	○	○	○	
	会話３	会話Ⅱ	中級	○	○	○	○	
フランス語	1	Ⅰ（前期）	初級	○				
	2	Ⅰ（後期）	〃	○				
	3	Ⅱ	中級	○				
	4	Ⅲ	上級	○				
	会話１	会話Ⅰ（前期）	初級	○				
	会話２	会話Ⅰ（後期）	〃	○				
	会話３	会話Ⅱ	中級	○				
中国語	1	Ⅰ（前期）	初級	○				
	2	Ⅰ（後期）	〃	○				
	3	Ⅱ	中級	○				
	4	Ⅲ	上級	○				
	会話３	会話Ⅱ	中級	○				
ロシア語	1	Ⅰ（前期）	初級	○				
	2	Ⅰ（後期）	〃	○				
	3	Ⅱ	中級	○				
	4	Ⅲ	上級	○				
朝鮮語	1	Ⅰ（前期）	初級	○				
	2	Ⅰ（前期）	〃	○				
	3	Ⅱ	中級	○				
イスパニア語	Ⅰ		初級	×	○	○	×	Ⅰ×２セット →Ⅱの順
	Ⅱ		中級	×	○	○	×	
ギリシア語				○	×	×	×	2年次生以上
ラテン語				○	×	×	×	2年次生以上
日本語		Ⅰ		○（留学生のみ）				1年次生以上
		Ⅱ		○（留学生のみ）				2年次生以上

※外国語によっては会話３，４が開講されない場合もあります。

２．履修方法

（１）　「卒業に必要な外国語の単位」数について

各学部によって異なります。入学時に配布された『教養教育履修案内』及び所属する学部の「履修案内」等に従ってください。

（２）　履修の順序について

原則として英語及びイスパニア語はⅠから，ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語は１から履修を開始します。

（３）　履修可能な外国語数について

外国語はどの学年からでも履修を開始できます。また，所属学部向けに開講されている授業であれば何ヵ国語でも履修できます。ただし，経済学部では２ヵ国語，経営学部では第一，第二外国語，工学部では学科により外国語数の制限等の基準があり，また，各語学によっても単位認定に必要な規定があります。語学の履修については次の項目に従ってください。

３．言語別の規定について

英語の履修相談については，p.44を参照してください。

（１）【英語】

ア　英語Ⅰ（大学初級レベル）

英語ⅠでＲＬ（リーディング，リスニング）を春学期・秋学期各１単位，Ｓ（スピーキング）とＷ（ライティング）を春学期または秋学期で各１単位ずつ履修します。

以上の４技能４単位が全部そろってはじめて，英語Ⅰの履修が完了したことになります。Ⅰを４単位を超えて履修することはできません。

ＲＬ（前期）〈平成 23 年度以降は英語実習 1ＬＲ（春学期）に読替〉に合格しなかった場合でも，ＲＬ（後期）〈平成 23 年度以降は英語実習 1ＬＲ（秋学期）に読替〉は履修できます。

（注）英語Ⅰの再履修について

英語Ⅰを未履修の者，または再履修する者は，次の表に従って自学部用に開講された英語実習１または再履修者用の特別クラスを英語Ⅰの代替科目として履修します。ただし，教育人間科学部と工学部同士，経済学部と経営学部同士は，相互乗り入れで履修できます。

英語ＩＳ	→	英語実習１Ｓ
英語ＩＷ	→	英語実習１Ｗ
英語ＩＲＬ（前期・後期）	→	再履修用英語実習１ＬＲ（春学期） または指定された英語実習１ＬＲ（春学期）

※英語実習１ＬＲ(秋学期)は,原則として英語ＩＲＬの代替科目として履修することはできません。

英語Ⅰの再履修をする者は，必ず英語教育部から出される指示に従ってください。指示の内容は各学部の掲示板に，学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することはできません。

イ　英語Ⅱ（大学中級レベル）

英語Ⅱ未履修者は，経営学部及び工学部の学生を対象に開講されている英語実習２ＳＷまたは２ＬＲを読み替え科目として履修してください。その際，自分の入学年度に適用される「履修案内」等の記述に従い，以下のように科目を選択してください。

履修したい科目	平成 26 年度に履修すべき科目
英語ⅡＬ，英語ⅡＲ，	英語実習２ＬＲ
英語ⅡＳ，英語ⅡＷ	英語実習２ＳＷ

英語Ⅱを履修する者は，必ず英語教育部から出される指示に従ってください。指示の内容は各学部の掲示板に，学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することはできません。

ウ　英語Ⅲ（大学中級以上レベル）及び Advanced クラス

時事英語・口語英語・イギリス事情，アメリカ事情，イギリス文化講読，アメリカ文化講読等を内容として開講します。内容の詳細については講義要目を参照してください。

原則としてⅡを４単位履修した後に履修できます。ただし，英語Ⅱを再履修しながら，英語Ⅲを履修することも可能です。

①経済学部

経済学部では英語Ⅲ（Advanced）の履修をする場合事前申請が必要です。経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に申し出てください。

英語履修の複線化について（経済学部）

	１　年	２　年	３　年	４　年
英語Ⅰ	○			
英語Ⅱ		▲		
英語Ⅲ（Advancedα） 英語Ⅲ（Advancedβ）	▲※	▲	▲	

○英語履修希望の者は必修　　▲成績により振り分け

英語Ⅱを履修した後に英語Ⅲ(Advanced)の履修を希望する者についてはテスト及び面接により履修の可否を決定します。

▲※　英語Ⅲ(Advancedα)は平成１８年度以降入学者向け英語実習 Advanced と同一のクラスです。

英語Ⅲ(Advanced)で修得できる単位は４単位が上限となります。英語Ⅰを４単位修得した場合は合計８単位が卒業認定単位の上限となります。

ただし，英語Ⅰ及び英語Ⅱの履修をスキップして英語Ⅲ(Advanced)から英語の履修を許可された学生は，２年目以降も英語Ⅲ(Advanced)を履修することにより合計８単位まで修得できます。いずれも８単位が卒業認定単位の上限になりますので，ほかの外国語科目の履修計画とあわせてご注意ください。

英語Ⅲ（Advanced）を再履修する場合，平成２６年度は英語Ⅲ（Advancedα）を履修できます。ただし，開講されているクラス数などに注意して履修計画を立ててください。その他不明な点などは経済学部担当の社会科学系事務部経済学務係に相談してください。

②経営学部

英語Ⅲを再履修する者は，読み替え科目として英語実習２ＬＲまたは英語実習２ＳＷを履修してください。その際，必ず英語教育部から出される指示に従ってください。指示の内容は各学部の掲示板に，学期初めに掲示します。指示に従わないで勝手に履修登録することはできません。

（２）【ドイツ語，フランス語，中国語，ロシア語，朝鮮語】

ア　履修方法

①必要最低単位について

次の単位を修得しないと「卒業に必要な外国語の単位」として認められません。（スピード履修者・スキップ履修を除く）

初級レベルの１・２

教育人間科学部・工学部

初級レベルの１と２を１セットとして２単位以上４単位まで。ただし，中級レベル３を履修する者は，その外国語のレベル１と２を２セット４単位。

経済学部

初級レベルの１と２を１セットとして同一外国語２セット４単位。

経営学部

初級レベルの１と２を１セットとして２セット４単位以上。ただし，中級レベル３を履修する者は，その外国語のレベル１と２を２セット４単位。

中級レベルの３

教育人間科学部・工学部　１単位以上４単位まで。

経済学部　４単位

上級レベルの４

教育人間科学部・経営学部・工学部　１単位以上

経済学部　４単位

※　１→２→３→４の順序で履修を進めます。１を修得していないと２へは進めません。３へ進む場合は１と２を２セット４単位が必要です。

クラス指定がある語学についても同様，１を修得していない場合は２へは進めませんので，授業計画を立てる際は注意してください。（再履修に関しては④を参照してください。）

②レベルアップについて

通常，中級のレベルの３へ進む場合は初級レベルの１と２を２セット４単位，上級レベルの４へ進む場合は中級レベルの３を４単位履修する必要があります。ただし，「スピード履修方式」を選択する者は４単位に満たなくてもステップアップすることができます。

また，一定の条件を満たし許可された者は，初級レベルをスキップし，中級レベルから履修することができます。なお，スピード履修者又はスキップ履修者になっても卒業に必要な外国語履修単位数は変わりません。

詳細は入学時に配布された『教養教育履修案内』を参照してください。

③クラス指定について

（原則として）クラス指定はありません（中国語を除く）。講義要目などを参考に，履修するクラスを選択してください。ただし，レベル１及び２を同一教員や同一組で履修するよう指定している語学もありますので，以下の各語学の注意事項及び講義要目で確認してください。クラスサイズを適正化するため履修制限を行うことがありますので，第１回目の授業には必ず出席してください。

④再履修について

a　初級レベルの１を修得していないと，その授業とセットになっている２を受講することはできません。

例）火曜日２限（春学期）：１…不合格→火曜日２限（秋学期）：２は履修できない。
　　金曜日３限（春学期）：１…合格　→金曜日３限（秋学期）：２を履修できる。

b　中級レベルの３に進むためには初級レベルの４単位（１と２を２セット４単位）が必要ですが，４単位未満のまま中級レベルに進むことを希望する者は単位未修得の科目を再履修する場合に限りこれを認めます。ただし，１はいずれも合格していることが条件となります。中級レベルの３から上級レベルの４へ進む場合も同じです。

例）１…合格，１…合格，２…合格，２…不合格の場合，２を再履修する場合に限り，３を履修できます。

c　卒業の時点で１，２，場合によっては３，４と積み重ねによる履修が完成していない場合，欠けている単位の上のレベルで修得した単位はすべて「卒業に必要な外国語の単位」として認めません。

例）　１…合格，２…不合格，１…合格，２…不合格，３…合格，３…合格　⇒　０単位
　　１…合格，２…合格，１…合格，２…不合格，３…合格，３…合格　⇒　２単位

科目については次の対応表に基づき，新科目名で再履修してください。

クラス指定のある科目はその組の中から，指定のない科目については講義要目より選択してください。ただし，履修の際は必ず事前に担当教員の許可が必要です。

語学名	旧科目名	新科目名	レベル
ドイツ語	１または会話１	実習１または実習１（会話）	初級
	２または会話２	実習２または実習２（会話）	〃
	３または会話３		中級
	４		上級
フランス語	１または会話１　※	実習１または実習１（会話）	初級
	２または会話２　※	実習２または実習２（会話）	〃
	３または会話３　※		中級
	４		上級
中国語	１ａ	実習１ａ	初級
	２ａ	実習２ａ	〃
	１ｂ	実習１ｂ	〃
	２ｂ	実習２ｂ	〃
	３または会話３		中級
	４		上級
ロシア語	１	実習１	初級
	２	実習２	〃
	３		中級
	４		上級
朝鮮語	１ａ，又は１ｂ	実習１	初級
	２ａ，又は２ｂ	実習２	〃
	３		中級

※　フランス語については４単位すべてを会話のクラスで充当することはできません。

※　「速習クラス」でフランス語１を単位取得した学生で，カリキュラム上速習クラスでフランス語実習２の履修が困難な学生は，他のフランス語実習２を２コマ履修することで代替することができます。ただし，必ず１と２のセットを作ることが必要です。

イ　各語学共通の注意事項

○○語１，○○語２については，それぞれ実習１，実習２をそのまま適用することが原則です。実習１は春学期に，実習２は秋学期に開講されますから，春・秋学期ともに同一時限の同一教員の授業を履修してください。

ウ　各語学別の注意事項

①　ドイツ語

ドイツ語会話について

ドイツ語会話１及び２：　ドイツ語会話１はドイツ語１，ドイツ語会話２はドイツ語２に代替することができます。ただし，１及び２を必ず１セットとして履修してください。ドイツ語１及び２を４単位履修したうえでドイツ語会話１及び２を履修しても「卒業に必要な外国語の単位」として認められないので注意してください。

ドイツ語会話３：　ドイツ語３に代替することができます。ドイツ語３を４単位履修したうえでドイツ語会話３を履修しても増加単位にしかならないので注意してください。

②　フランス語

フランス語会話について

フランス語会話１及び２：　フランス語３に進む意志のある者のみ履修できます。

フランス語会話１は，フランス語１，フランス語会話２はフランス語２に代替することができます。ただし，１及び２を必ず１セットとして履修してください。フランス語１及び２を４単位履修したうえで，フランス語会話１及び２を履修しても増加単位にしかならないので注意してください。

フランス語会話３：　フランス語３を４単位以上履修しようとする者が履修できます。その４単位のうち２単位分を充当させることができます。

③　中国語

ａ　中国語初級レベル（中国語１及び中国語２）について

初級をａ群（文法に重点をおいた授業）とｂ群（発音や会話に重点をおいた授業）に二分し，１ａと２ａで２単位，１ｂと２ｂで２単位となります。

また，原則として春・秋学期で同一教員の同曜日・同時限の授業を選択してください。

４単位履修希望者はａ群あるいはｂ群にかたよらないよう，１ａ２ａ（２単位）と１ｂ２ｂ（２単位）を選択してください。

ｂ　中国語中級レベル（中国語３）について

ａ群とｂ群の区別はありません。講義要目を参考に自由に選択してください。ただし，同一教員の授業は春学期と秋学期を連続して受講することはできますが，同一年度の春学期あるいは秋学期に重複して選択することはできません。また，履修学年が異なれば同一教員の授業を春学期，秋学期にかかわらず何度受講してもかまいません。

④　朝鮮語

初級レベル（朝鮮語１と２）：　春学期と秋学期同一時間帯の１と２の計２単位を１セットとします。なお，時間割の都合でどうしても同一時間帯で履修できない場合は担当教員に相談してください。４単位履修希望者は異なる教員の授業を２セット履修してください。

中級レベル（朝鮮語３）：　初級４単位（２セット）修得した人が履修できます。３は春学期または秋学期だけでも履修でき，担当教員または年次が異なれば重複履修もできます。

⑤ ロシア語

a ロシア語初級について

ロシア語の初級は春学期に１，秋学期に２が開講されています。単位の認定は，春学期・秋学期別，１単位ごとに行いますが，授業内容は１年間で完結するようになっていますので，１と２を１セットとし，春・秋学期同じ曜日・時限・教員の授業を受講してください。

すべて全学部共通です。時間割の編成上各自にとって都合のよいところで受講することができます。

１と２を１セットとして，２セット・計４単位履修すればロシア語３に進むことができます。

ロシア語１とロシア語２を１セットとして，２セット・計４単位履修したうえでさらにロシア語１及びロシア語２を履修しても「卒業に必要な外国語の単位」として認められないので注意してください。

b ロシア語３について

ロシア語３は，１と２を１セットとして，２セット・計４単位履修したのち受講することができます。春学期または秋学期のみの１単位きざみで履修しても卒業単位として認められます。なお，ロシア語３（中級）は４単位までしか卒業単位として認められません。それ以上履修しても「卒業に必要な外国語の単位」として認められないので注意してください。

c ロシア語の再履修について

初級は春学期の再履修を同一年度の秋学期に履修することはできません。翌年の春学期または秋学期に再履修してください。秋学期の再履修は翌年度の春学期または秋学期に再履修してください。秋学期のみ履修できなかった場合は，秋学期のみ再履修してください。（春学期から取り直す必要はありません）。中級以上は春学期に単位を落とした場合，同一年度の秋学期に再履修することができます。

（３）【イスパニア語】

Ａ　イスパニア語Ⅰ

平成１７年度以前の経済学部・経営学部学生のみが履修できます。
イスパニア語ＩＡ・ＩＢの授業は，春学期と秋学期の２科目で１つのセットを組んでおり，平成２６年度は以下の２セットが設定されています。各セットとも春学期１単位・秋学期１単位，計２単位となります。

①「イスパニア語ＩＡ（春学期・山田）」
　「イスパニア語ＩＢ（秋学期・山田）」
②「イスパニア語ＩＡ（春学期・川上）」
　「イスパニア語ＩＢ（秋学期・川上）」

履修方法

イ）　経済学部は必ず２セット（計４単位）を，その他の学部は１～２セット（計２～４単位）を選択して履修してください。ただし，イスパニア語Ⅱまで履修予定の者は必ず２セット（計４単位）を履修してください。

ロ）　経済学部以外の学部で１セット（計２単位）のみ履修の場合，春学期科目のみ例えば，「イスパニア語ＩＡ（春学期）」と「イスパニア語ＩＡ（春学期）」の組み合わせや，秋学期科目のみ，例えば，「イスパニア語ＩＢ（秋学期）」と「イスパニア語ＩＢ（秋学期）」の組み合わせで，合計２単位として履修することはできません。必ず春学期＋秋学期のセット単位で通年履修して，２単位としてください。

ハ）　平成１７年度以前入学の経済学部・経営学部生によるイスパニア語ＩＡ・ＩＢの履修は，再履修を含めて，イスパニア語実習１・２で行います。再履修時の履修科目の選択・組み合わせについては，昨年度の履修状況次第で様々なケースが想定されるので，必ず開講時に教員に相談し，許可を受けたうえで登録してください。相談・許可なしに登録した場合には受講できない場合があります。
　特に，今回初めてイスパニア語Ⅰを履修する，平成１７年度入学以前の学生については，開講される「イスパニア語Ⅱ」が毎年２科目（２単位分）のみであることに注意してください。卒業に４科目（４単位分）が必要な場合，Ⅱを合計４単位をそろえるには２年間（Ⅰとあわせると３年間）かかることになります。このため，履修にあたっては，慎重な検討が必要です。

ニ）　各セット内の授業２科目は手続き上は別科目扱いですから，それぞれを別々に履修登録する必要があります。登録漏れのないよう充分に注意してください。

ホ）　履修制限があるので，登録の仕方については，所属学部の掲示に注意してください。

Ｂ　イスパニア語Ⅱ

イスパニア語ⅡＡ・ⅡＢは，平成１７年度以前入学生であり，かつイスパニア語ＩＡ・ＩＢを２セット履修済みの経済学部・経営学部学生のみが履修できる科目です。

イスパニア語ⅡＡ・ⅡＢの授業は，２科目ずつセットを組んでおり，例年，１セットのみの開講となります。１セットで，春学期１単位・秋学期１単位の計２単位となります。卒業のためにⅡが４単位必要な場合は，４科目４単位を２年間にわたり履修する必要があります。

①「イスパニア語ⅡＡ（春学期）」
　「イスパニア語ⅡＢ（秋学期）」

履修方法

セット内の授業２科目は手続き上は別科目扱いですから，それぞれを別々に履修登録する必要があります。登録漏れのないよう充分注意してください。

Ｃ　「イスパニア語科目」の種類と読み替え

平成１８年度以降，「イスパニア語科目」には，新たに「イスパニア語実習１」，「イスパニア語実習２」，「イスパニア語演習」の３種類が開講されています。これらは，以下の表のように対応しています。すなわち，旧カリキュラム（平成１７年度以前入学の学生に適用）で，春学期と秋学期の区別を意

味していた記号A, Bは, 新しいカリキュラム上の科目名では, 担当教員（クラス）の区別を意味します。新カリキュラムでの春学期, 秋学期の区別は，１，２という算用数字で示されています。なお旧カリキュラムでは, ローマ数字のⅠ, Ⅱが学年の違いを意味していますが，新カリでは学年の区別に数字を使用していません。

「イスパニア語演習」は，履修しても「卒業に必要な教養教育科目の単位」とはなりませんので，注意してください。

平成１７年度以前の授業科目名	左に対応する 平成１８年度以降の授業科目名
イスパニア語ＩＡ	イスパニア語実習１
イスパニア語ＩＢ	イスパニア語実習２
（該当科目なし）	イスパニア語演習
イスパニア語ⅡＡ	該当科目なし
イスパニア語ⅡＢ	該当科目なし

（４）【ギリシア語，ラテン語】

教育人間科学部の２年次生以上が履修できます。
ラテン語，ギリシア語については１単位の履修が可能です。

（５）【日本語】

「Ｆ．外国人留学生のための授業科目」（p.65）を参照してください。

D．健康スポーツ科目

１．授業科目

学　　部	授　業　科　目	単位	学期	毎週授業時数	履修年次	備　考
教育人間科学部	健康スポーツ演習Ａ	２	春または秋	２	１	必修科目
学部共通	健康スポーツ演習Ｂ	２	春または秋	２	１～４	選択科目

注１．教員免許状修得希望者は健康スポーツ科目（２単位）を履修しなければなりません。
注２．健康スポーツ演習Ａは教員免許状取得における体育全般についての基礎的な知見の獲得を，健康スポーツ演習Ｂは健全な心身の発育発達の保障と運動習慣の体得を，それぞれの主目標として編成しています。
注３．健康スポーツ演習Ｂは各学部で定められた履修基準表に従って，教養教育科目の単位として算入できます。
注４．教育人間科学部学校教育課程の履修年次については，健康スポーツ演習Ａは１年次，健康スポーツ演習Ｂは２～４年次とします。

２．履修方法

（１）　健康スポーツ演習Ａ

① 健康スポーツ演習Ａは原則として１年次に履修しますが，学部・クラスが指定されているので，指定に従って履修しなければなりません。
② 健康スポーツ演習Ａのコース選択
　健康スポーツ演習Ａは数コース開設され，その中から１コースを選んで履修します。詳細については春学期の最初に行われる健康スポーツ演習Ａのオリエンテーションの際に説明します。オリエンテーションを欠席すると履修できないことがあるので注意してください。
③ 疾病または身体障害のため健康スポーツ演習Ａの履修が困難な者は，教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に直接届け出て指示を受けなければなりません。

（２）　健康スポーツ演習Ｂ

① 健康スポーツ演習Ｂは１～４年次の間に履修できます。演習Ｂの内容については教養教育講義要目を参照してください。
② 健康スポーツ演習Ｂの受講を希望する者は教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に受講の届け出を行い，小委員会から登録の許可を得なければ履修することができません。
　受講の届出は以下の期間に行わなければなりません。（秋学期は改めて掲示します。）

第１次届出期間：平成２６年４月４，７，８日　１０：３０～１６：３０
第２次届出期間：平成２６年４月９，１０日　１０：３０～１６：３０

（届出場所：教育人間科学部第１研究棟１１８室）

なお，健康スポーツ演習Ｂでは効率的な授業運営のために履修者数の制限を行っているため，定員以上の登録希望者がいる場合は抽選を行います。
また，秋学期授業では履修状況によって追加募集することがあります。

（３） 履修上の注意

① 出席回数に関して

(1) 健康スポーツ科目はその性格上，特に出席を重視しており，規定の出席回数に満たないときは単位は認定されません。

② 健康スポーツ演習Ａと健康スポーツ演習Ｂの振り替えに関して

(1) 健康スポーツ演習Ｂの単位を健康スポーツ演習Ａの単位に振り替えることは原則としてできません。

(2) やむを得ない事情から原則的な履修方法によらず，または履修上の指定によらず履修しなければならないときは，教育人間科学部健康スポーツ教育小委員会に届け出てその承認を得なければなりません。

③ 再履修に関して

(1)再履修者は履修及びコース選択に際して担当者に届け出て，その承認を得なければなりません。

Ｅ．外国人留学生のための授業科目〔平成１８年度以降入学者適用〕

教養教育科目の中で，外国人留学生だけが履修できる科目として，日本語科目と日本事情科目があります。

１．日本語科目

大学で学習するために必要な日本語力を育成する科目であり，基本的な日本語力を育成する日本語実習と，それを発展させ，社会・研究生活に適した思考力・表現能力を育成する日本語演習があります。日本語科目を履修した場合，外国語科目に代えることができます。その詳細は下の表の通りです。

学　　部	代替できる外国語と単位	備　　考
教育人間科学部	１外国語８単位以上	
経済学部	１外国語１２単位以内	
経営学部	日本語実習科目４単位，日本語演習科目２単位，計６単位を英語以外の外国語へ	他の外国語を履修した場合でも，左記の日本語科目６単位は必修（※）
工学部	日本語科目は，１外国語（１ヵ国語）へ読み替えられます。	
理工学部	日本語科目は，１外国語（１ヵ国語）へ読み替えられます。	

※なお，プレースメントテストで中級と判断された経営学部留学生は，上記６単位に加え，「日本語中級」４単位を履修しなければなりません。

日本語科目の評価については，授業への参加，小テスト，プレゼンテーション，中間の課題，期末の課題（試験またはレポート）などを評価基準とします。評価項目の詳細と評価の割合については，各科目のシラバスを参照してください。

すべての外国人留学生は入学時点でプレースメントテストを受け，日本語力のレベルによって，中級者と上級者に分けられます。中級者と上級者では，１年次春学期に受ける日本語科目が異なりますので，注意してください。

１）中級者の場合

中級者とされた留学生は，日本語実習科目のうち，１年次春学期には日本語中級を履修します。日本語力を高め，大学での学習をスムーズに進めるため，できる限り多くの日本語中級クラスを受講することを，強くすすめます。１年次秋学期からは，日本語上級を履修します。日本語演習を履修することもできます。

２）　上級者の場合

上級者は日本語中級を履修することはできません。１年次春学期から日本語上級を履修します。１年秋学期以降にも日本語上級，日本語演習を履修することをすすめます。

日本語科目の履修モデル（日本語教育担当教員がすすめる履修単位数）

中級者	1年次春学期　：日本語中級　4単位 1年次秋学期以降：日本語上級　4単位 日本語演習　2単位	合計１０単位
上級者	1年次春学期　：日本語上級　2単位 1年次秋学期以降：日本語上級　2単位 日本語演習　2単位	合計　6単位

２．日本事情科目

日本事情科目は教養コア科目の現代科目の単位に代えることができます。

３．授業科目等

学部	授業科目			学期	単位数	履修年次	備考
学部共通	日本語科目	実習科目	日本語中級A	春	1	1年次春学期	中級者向けクラスであり，上級者は履修できません。 中級者は1年次春学期に履修すること。
			日本語中級B	春	1		
			日本語中級C	春	1		
			日本語中級D	春	1		
			日本語中級E	春	1		
			日本語中級F	春	1		
			日本語中級G	春	2		
			日本語上級A	春	1	1年次～4年次	中級者は1年次秋学期から履修できます。
			日本語上級B	秋	1		
			日本語上級C	秋	1		
			日本語上級E	秋	1		
			日本語上級H	春	1		
			日本語上級J	秋	1		
			日本語上級K	春	1		
			日本語上級L	春	1		
			日本語上級M	春	1		
		演習科目	日本語演習A	秋	2	1年次秋学期～4年次	
			日本語演習D	秋	2		
			日本語演習E	春	2		
	日本事情科目		日本事情G	秋	2	1年次～4年次	教養コア科目の現代科目の単位に代えることができます。

Ｆ．外国人留学生のための授業科目〔平成１７年度以前の入学者適用〕

１．「日本語科目」及び「日本事情科目」の履修規定

教養教育科目の中で，外国人留学生だけが履修できる科目として，「日本語科目」と「日本事情科目」があります。平成１８年度から「日本語科目」の科目構成が変わりましたので，これまでの科目との読み替え（２．に示します）に注意してください。「日本事情科目」については，平成１７年度までと同じ科目構成です。

外国人留学生が「日本語科目」及び「日本事情科目」を履修したときには，次に掲げる科目に代えることができます。

【全学部共通】

「日本語科目」については外国語科目のうち一つに限り８単位。

「日本事情科目」については主題別教養科目８単位以内。

【経営学部】

経営学部にあっては「日本語Ⅰ」を４単位，「日本語Ⅱ」を２単位（国際経営学科は４単位）計６単位（国際経営学科は８単位）を必修とします。

なお，「日本語科目」は６単位（国際経営学科は８単位）までを第二外国語に限り代替できるものとします。（「日本語科目」以外の外国語を第二外国語として履修した場合でも，「日本語科目」は必修科目なので履修する必要があります。）

２．「日本語科目」の種類と読み替え

平成２６年度の「日本語科目」は，「日本語中級」，「日本語上級」，「日本語演習」の３種類が開講されます。このうち，平成１７年度以前の入学生が「外国語科目」に代わる科目として履修できるのは，「日本語上級」だけです。

「日本語Ⅱ」は「日本語上級」と読み替えることができます。ただし，「不可」または「準可」だった「日本語Ⅱ」を再履修する際は，科目登録時に所属学部の学務担当係にその旨を申請しなければなりませんので，注意してください。

「日本語上級」は，平成１７年度までの「日本語Ⅰ」に対応する科目です。以下の表のように対応していますので，対応する科目をすでに履修した場合は，その科目は履修できません。

平成１８年度以降の授業科目名	平成１７年度以前の授業科目名
日本語上級Ａ	日本語ＩＣ
日本語上級Ｂ	日本語ＩＤ
日本語上級Ｃ	（該当なし）
日本語上級Ｄ	日本語ＩＥ
日本語上級Ｅ	（該当なし）
日本語上級Ｆ	日本語ＩＦ
日本語上級Ｇ	（該当なし）

３．授業科目等

学部	授業科目		学期	単位数	履修年次	備考
学部共通	日本語科目	日本語上級Ａ	春	1	１年次～４年次	「日本語Ｉ」との対応に注意して，履修してください。
		日本語上級Ｂ	秋	1		
		日本語上級Ｃ	秋	1		
		日本語上級Ｅ	秋	1		
		日本語上級Ｈ	春	1		
		日本語上級Ｊ	秋	1		
		日本語上級Ｋ	春	1		
		日本語上級Ｌ	春	1		
		日本語上級Ｍ	春	1		
	日本事情科目	日本事情Ｇ	秋	2	１年次～４年次	

Ｇ．グローバルＰＬＵＳ　ＯＮＥについて

副専攻プログラム・グローバルＰＬＵＳ　ＯＮＥは，自らの所属する専攻（課程・学科）の他にプラスワンの分野を系統的に学習するプログラムです。授業はすべて英語で開講されます。所定の修了要件を満たした者には，修了証が発行され，成績証明書にも「グローバル副専攻」という副専攻名が記されます。

グローバルＰＬＵＳ　ＯＮＥは，自文化の理解とアイデンティティーにもとづき，チームリーダーとして世界をフィールドに活躍できる外国語能力，情報発信能力，異文化間協働能力に優れた人材の育成を目的とします。科目群は，海外派遣学修，ＩＣＴリテラシー，異文化グループワーク，グローバル・リーダー／ファシリテーター等の科目が用意されます。

修得単位数に応じて，「グローバル・アシスタント」，「グローバル・アソシエイト」，「グローバル・リーダー／ファシリテーター」のタイトルが授与されます。

４月初旬にオリエンテーションを開催します。詳細は掲示板または所属学部の学務担当係等にある資料を参照してください。

Ｈ．地域交流人材育成プログラムについて

現在学部生あるいは大学院生を対象とした副専攻プログラムが複数開設されていますが，各プログラムの所定の修了要件を満たした者には，修了証が発行され，成績証明書にも副専攻プログラムを修了した旨が記載されることになっています。

現在開設されている副専攻プログラムの内，教養教育科目の履修に係るものとして，「地域交流人材育成プログラム」があります。このプログラムは，現代科目「地域連携と都市再生Ａ」「地域連携と都市再生Ｂ」「地域課題実習Ⅰ」「地域課題実習Ⅱ」の４科目全てと，教養教育科目及び各学部の専門教育科目の内プログラム修了の為の科目として指定するものから４単位を，必要なGPAの基準を満たして修得することにより修了が認定されることになっています。

地域交流人材育成プログラムの詳細については，別途「平成２６年度地域交流科目履修案内」を参照してください。なお，以下のURLでの閲覧も可能です。

http://www.chiki-ct.ynu.ac.jp/30progn/index.html

Ｉ．再履修について

・平成１５年度の入学者からGPA制度が導入され，履修の結果，「準可」，「不可」の成績が与えられた場合には，再履修が認められます。（１９年度入学者から，成績評価の「準可」はなくなりました。）
・再履修した場合の成績は，再履修後の成績に置き換えられますので注意が必要です。
・特にp35の「授業科目名変更に伴う重複履修の禁止について」に該当する科目は，重複履修できませんので注意してください。

１５年度から１７年度までの再履修科目について（１５年～１７年度入学生適用）

<table>
<tr><th>科　目　区　分</th><th>再　履　修　科　目</th></tr>
<tr><td>主題別教養科目（文化と人間社会）</td><td rowspan="2">同一名称の授業科目を履修。
同一名称の科目が開講されていない場合は同一科目区分（文化と人間社会，自然と科学技術）から自由選択（p26開講科目一覧表の「旧カリ生の読み替え区分欄」）から該当区分を選択。（ただし，未修得科目）</td></tr>
<tr><td>主題別教養科目（自然と科学技術）</td></tr>
<tr><td>主題別教養科目（総合領域）</td><td>総合科目の中から自由に選択</td></tr>
<tr><td>主題別教養科目（コンピューティング）</td><td rowspan="2">同一名称の授業科目を履修</td></tr>
<tr><td>基礎演習科目</td></tr>
<tr><td>外国人留学生のための授業科目
（日本語・日本事情に関する科目）</td><td rowspan="2">それぞれの科目の履修方法参照</td></tr>
<tr><td>外国語科目，健康スポーツ科目</td></tr>
</table>

１８年度からの再履修科目について（１８年度以降入学生適用）

科　目　区　分	再　履　修　科　目
基礎科目（人文社会系）	同一名称のものを履修。 同一名称の科目が開講されていない場合は同一科目区分（人文社会系，自然科学系）の中から自由に選択（ただし，未修得科目）
基礎科目（自然科学系）	
現代科目	
総合科目	総合科目の中から自由に選択
情報リテラシー	同一名称の授業科目を履修
基礎演習科目	
外国人留学生のための授業科目 （日本語・日本事情に関する科目）	それぞれの科目の履修方法参照 ※英語についてはP.38も参照
外国語科目，健康スポーツ科目	

Ｊ．追試験について

次の(ア)～(エ)に該当する事由により当該学期末試験期間内に行われた科目を受験できなかった場合には，当該科目について追試験の実施を申請することができます。

（ア）本人の疾病又は負傷（医師の診断書を必要とする）
（イ）両親又は同居の親族の死亡（事実を確認できる書類を必要とする）
（ウ）交通機関の著しい遅延・運休（事実を証明する書類を必要とする）
（エ）その他，部局長がやむを得ない理由があると認めたとき

追試験の実施を申請する際は，所属学部の学務担当係まで申し出てください。
詳細は本学ホームページを参照してください。
http://www.ynu.ac.jp/campus/procedure/supplementary.html

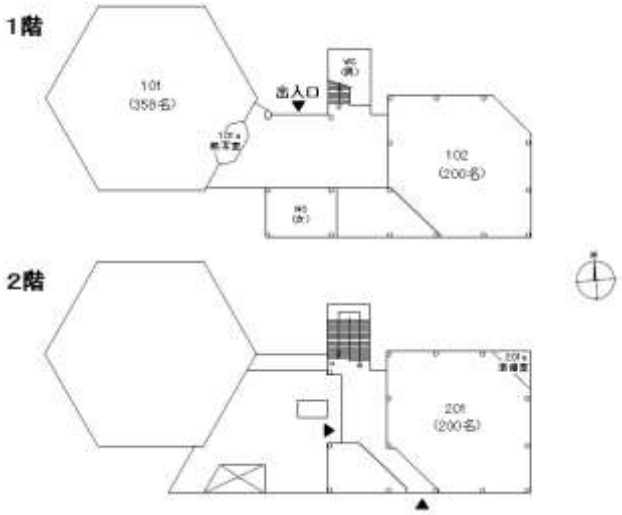
Ｋ．シラバスについて

平成22年度から学務情報システム（https://risyu.jmk.ynu.ac.jp/risyu/）により，教養教育科目及び各学部専門教育科目のシラバスの検索及び閲覧が可能となりました。詳細は本学ホームページに掲載されている学務情報システム操作説明，または同ホームページ掲載予定の学生便覧を参照してください。シラバスの項目は次の通りですが，必須項目以外は掲載をしていない科目もあります。

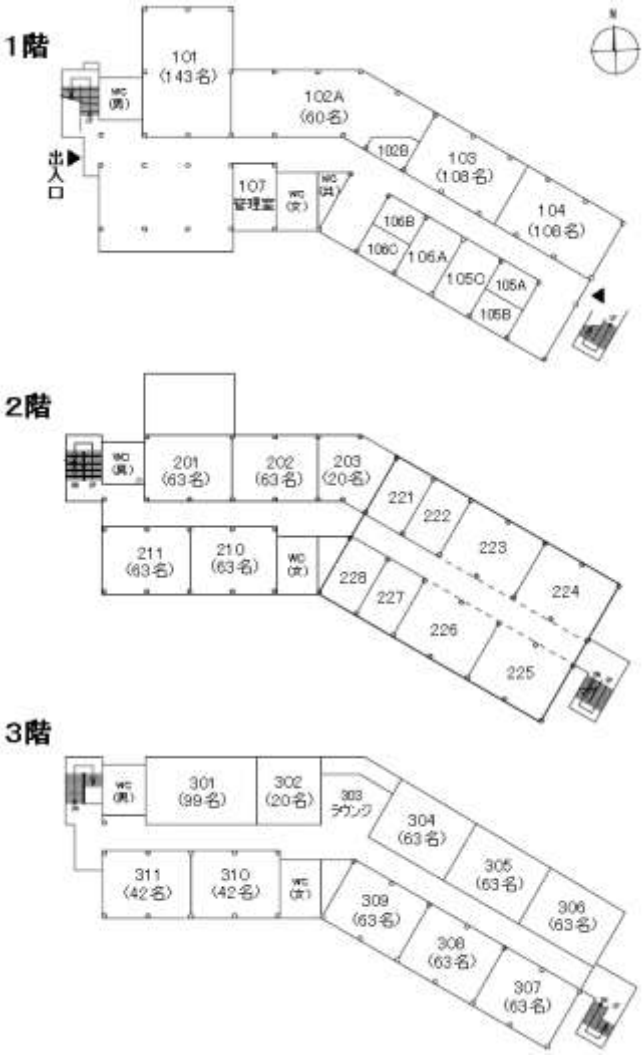
・授業の目的	※必須項目	・備考１（科目注意事項）
・授業概要	※必須項目	・備考２（科目注意事項）
・履修目標・到達目標	※必須項目	・参照ホームページ（学習に関する情報）
・授業方法		・教員からの一言
・成績評価の基準	※必須項目	・オフィスアワー
・教科書		・連絡先（教員室）
・教科書補足		・連絡先（電話番号）
・参考書		・連絡先（メールアドレス）
・参考書補足		・備考３（教員注意事項）
・履修条件及び関連科目		・ホームページ（教員に関する情報）
・キーワード（重要語句）		

L．講義棟案内図・キャンパスマップ

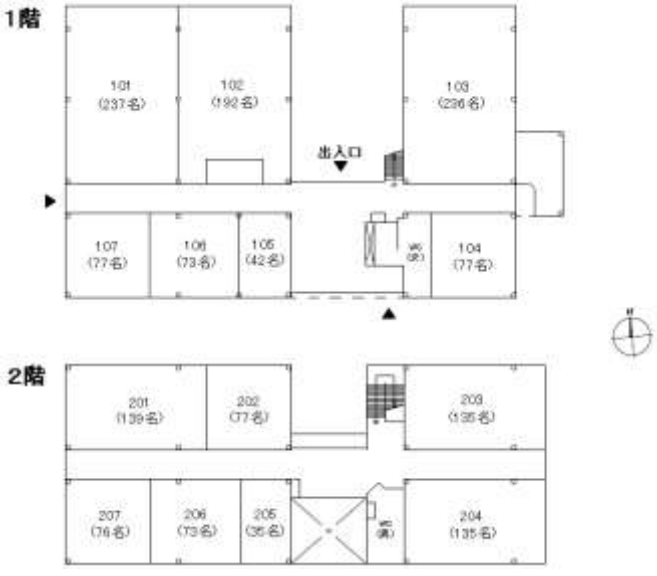
【教育人間科学部講義棟６号館】



【教育人間科学部講義棟７号館】



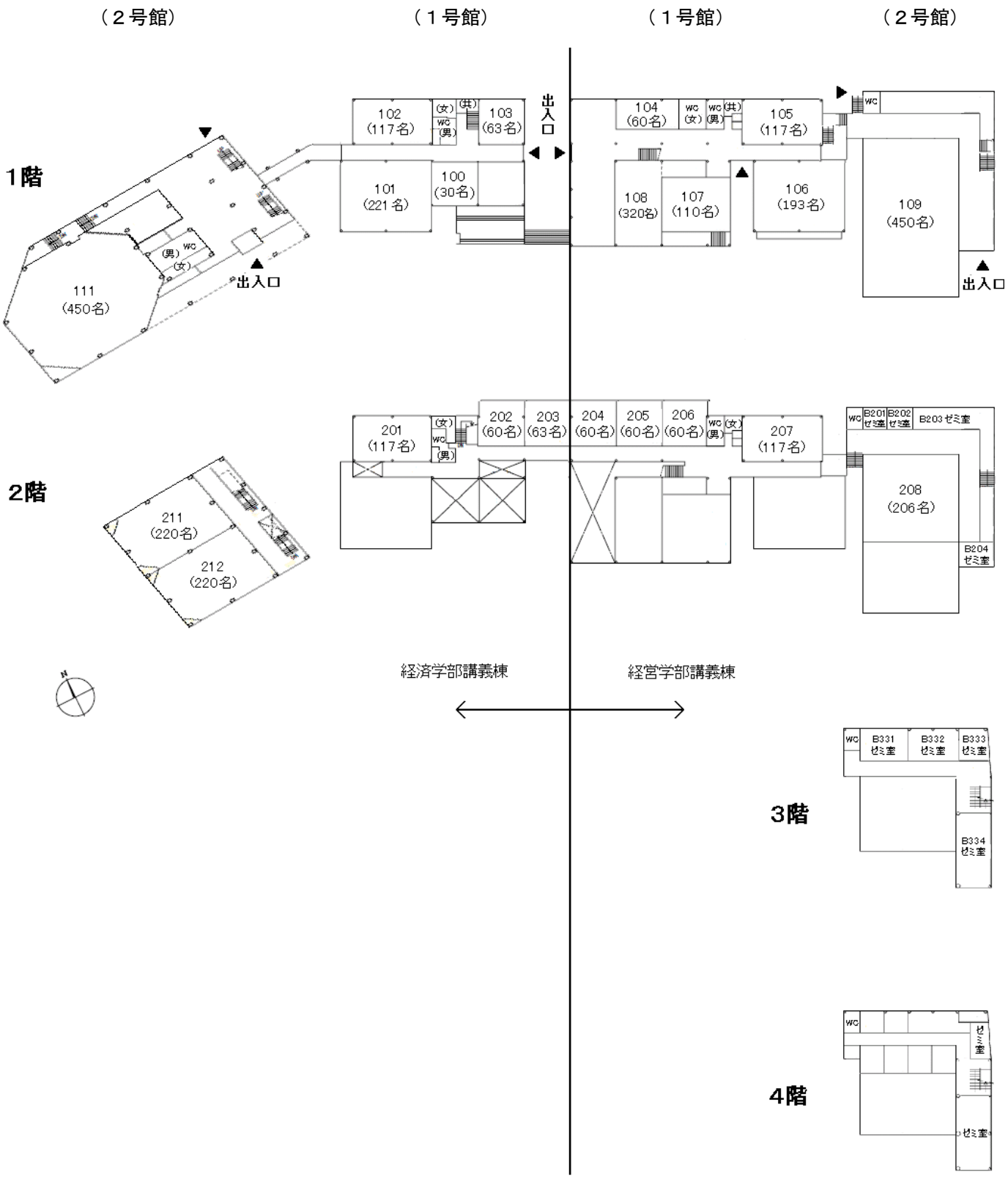
【教育人間科学部講義棟８号館】



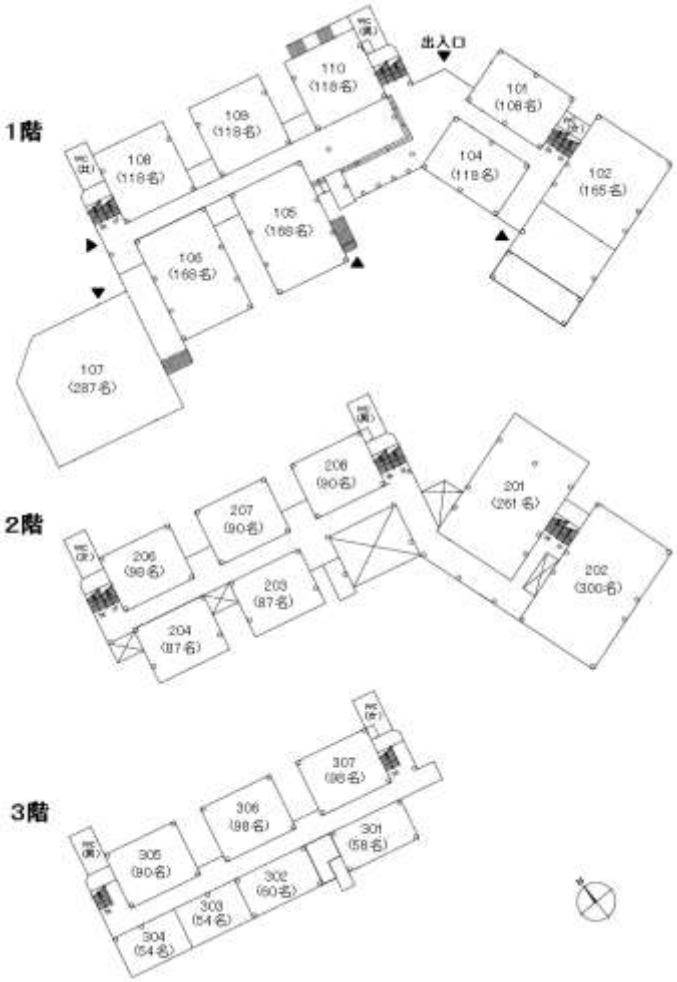
CALL 教室は，教育人間科学部第一研究棟の 2 階です。

p.72 キャンパスマップ：S3-2

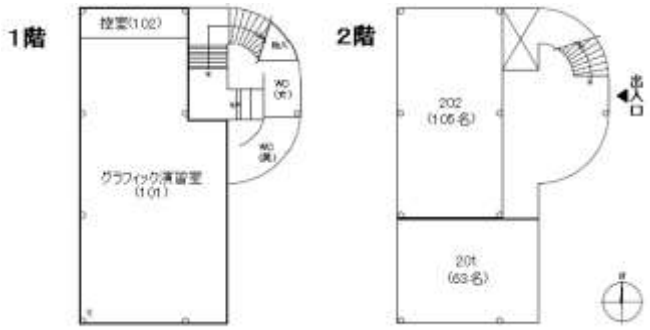
【経済学部・経営学部講義棟】



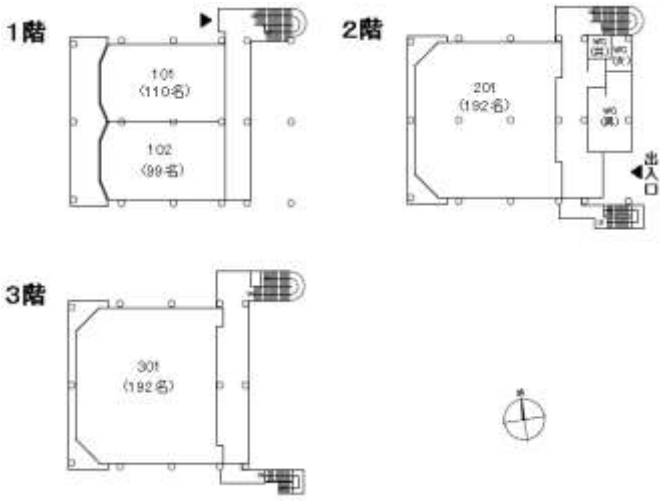
【理工学部講義棟Ａ】



【理工学部講義棟Ｂ】



【理工学部講義棟Ｃ】



化学実験室　[教育人間科学部講義棟 7 号館 2 階(p.72 キャンパスマップ S2-2)]

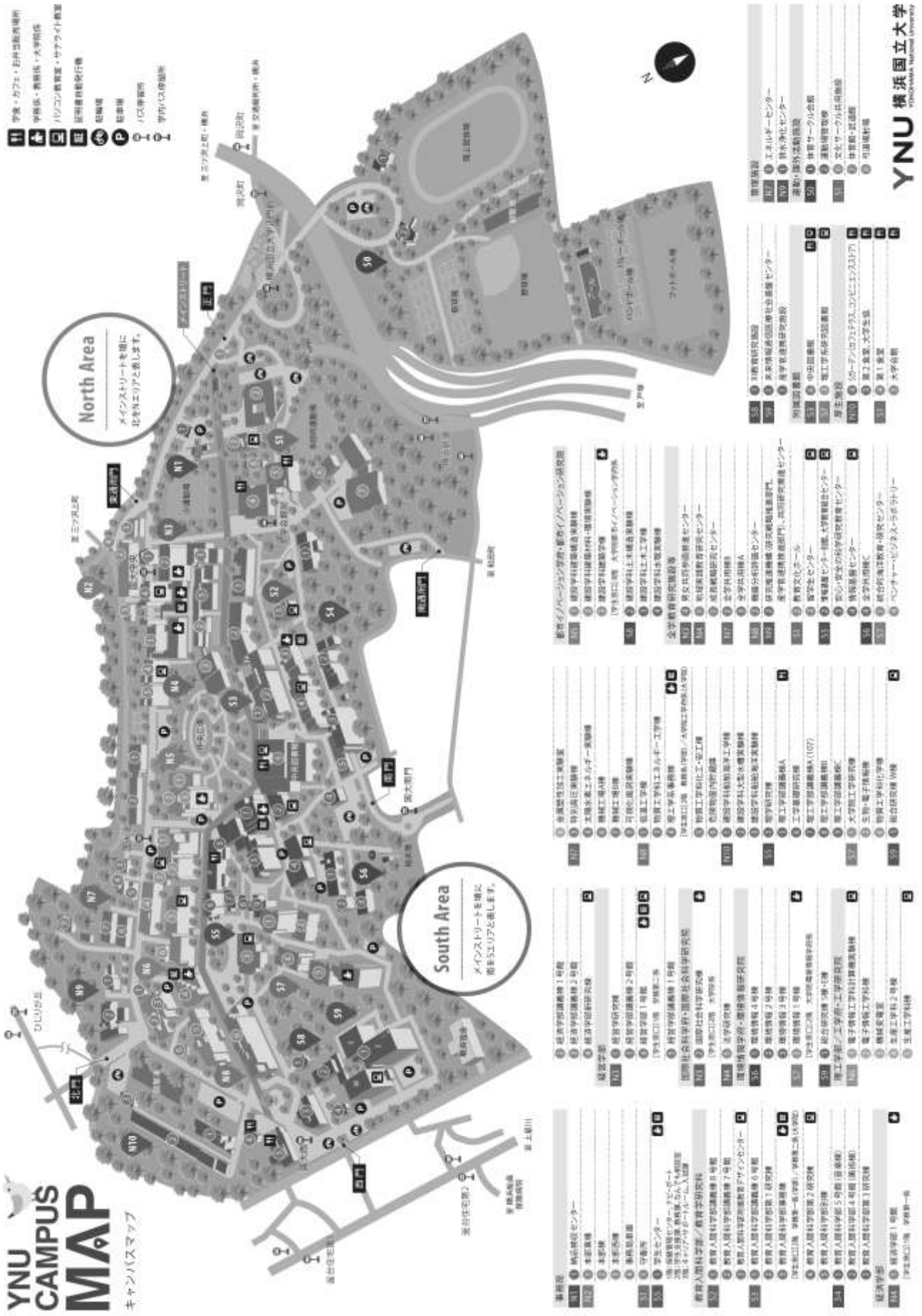
物理実験室　[工学基礎研究棟 3 階（p.72 キャンパスマップ S5-6）]

※理工学部 A 講義棟 3 階から入ってください。時間外は施錠されます。

グラフィック演習室　[理工学部 B 講義棟 1 階（p.72 キャンパスマップ S5-8）]

情報基盤センター

パソコン教室 A・B，Mac 教育室（p72 キャンパスマップ S5-4）

パソコン教室 C・D（p.72 キャンパスマップ S5-2）

L．講義棟案内図・キャンパスマップ